

第 22 回（令和 5 年度第 1 回）
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会

《会 議 次 第》

日時：令和 5 年 4 月 25 日（火） 18 時 30 分～

場所：久留米市公社会館メルクス 3 階大ホール

議題

（１）セーフコミュニティの認証取得にかかる本審査の実施について・・・資料 1

（２）本審査のプレゼンテーションについて・・・資料 2

（３）溺死・溺水の予防について・・・資料 3

（４）地域診断の実施について

（５）その他

外傷等動向調査委員会 委員名簿 (敬称略・順不同)

団 体 名	役 職	氏 名	
学校法人 久留米大学	教授	山下 典雄	委員長
一般社団法人久留米医師会	理事	三宮 貴彦	副委員長
社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	救命救急センター長	爲廣 一仁	
損害保険ジャパン株式会社	久留米保険金サービス課長	中尾 直人	
久留米広域消防本部	救急防災課長	村田 康裕	
久留米市保健所	所長	吉田 まり子	
久留米市	協働推進部長	秦 美樹	

〈事務局〉 久留米市 協働推進部 安全安心推進課

久留米市 健康福祉部 保健所総務医薬課

資料 1

審査員：2名を予定。現在調整中

スケジュール案

R5.3.20時点

	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	全体概要〈60分〉	⑤対策委員会〈60分〉
10:00	外傷等動向調査委員会〈60分〉	⑥対策委員会〈60分〉
11:00	①対策委員会〈60分〉	⑦対策委員会〈60分〉
12:00	昼食	昼食
13:00	市内視察〈90分〉 ※移動含む	⑧対策委員会〈60分〉
14:00	②対策委員会〈60分〉	審査員ミーティング 〈40分〉
15:00	③対策委員会〈60分〉	講評〈60分〉 プラザ 大会議室
16:00	④対策委員会〈60分〉	
17:00		
18:00		

◆趙先生

視点：セーフコミュニティの効果を説明するためには？

久留米の例では、交通事故と防犯

- 交通事故は、全国、県より減少率が高いので、わかりやすい。
- 防犯は、全国も県も減っている。⇒ＳＣの効果が説明しにくい。韓国でも同じ悩み。

じゃあ、どうするか？

ターゲットが明確ならば、効果も説明しやすい。

本審査での対応：ニセ電話詐欺対策を講じた結果、福岡県の被害額が増大したのに対し、久留米市では減少した点を追加（王先生の指摘にも合致）

◆王先生

趙先生と同じ視点

国、県、市とも安全が向上している場合、ＳＣと非ＳＣの違いの一つは、サーベイランス（外傷委員会）の存在である。サーベイランスで原因を考えてほしい。

例えば、

国レベルでは、法や規制がある。

県では、 $+\alpha$ の条例がある。

市には、さらにＳＣがある。⇒これが、国、県以上に安全が向上している理由ではないか？
難しいと思うがチャレンジを！

- ターゲットを明確にし、ターゲットのデータを見れば、既に効果が出ているのはいいか、本審査ではその点を出してほしい。
- 病気を除く死亡原因のランキングを見ると、大きな傾向が変わらない。本審査では、それがなぜなのか、に触れてはどうか。

本審査での対応：人口動態統計は、久留米市の地域診断の柱であり、本審査でも同じデータを提示する。大きな傾向は変わらないものの、人口当たりの発生率を、全国、県と比較することでより課題が明確になったので、本審査では、その点を説明する。

久留米市セーフコミュニティ 外傷等動向調査委員会

発表日 2023年 月 日
発表者 外傷等動向調査委員会 山下典雄
所 属 久留米大学

1 委員会の概要

外傷等動向調査委員会の構成メンバー

区 分		所 属
医療機関	1	久留米大学医学部
	2	一般社団法人 久留米医師会
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター
損害保険事業者	4	損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社
関係機関	5	久留米広域消防本部 救急防災課
行政機関	6	久留米市保健所
	7	久留米市協働推進部

新メンバー

➤ 新メンバーについては、14ページで説明します。

外傷等動向調査委員会の設置

SC認証センターが示す「セーフコミュニティ7つの指標」より

指標
4

あらゆる入手
可能な「根拠」に
基づいた仕組み

指標
5

外傷の頻度と
原因を記録する
仕組み

指標
6

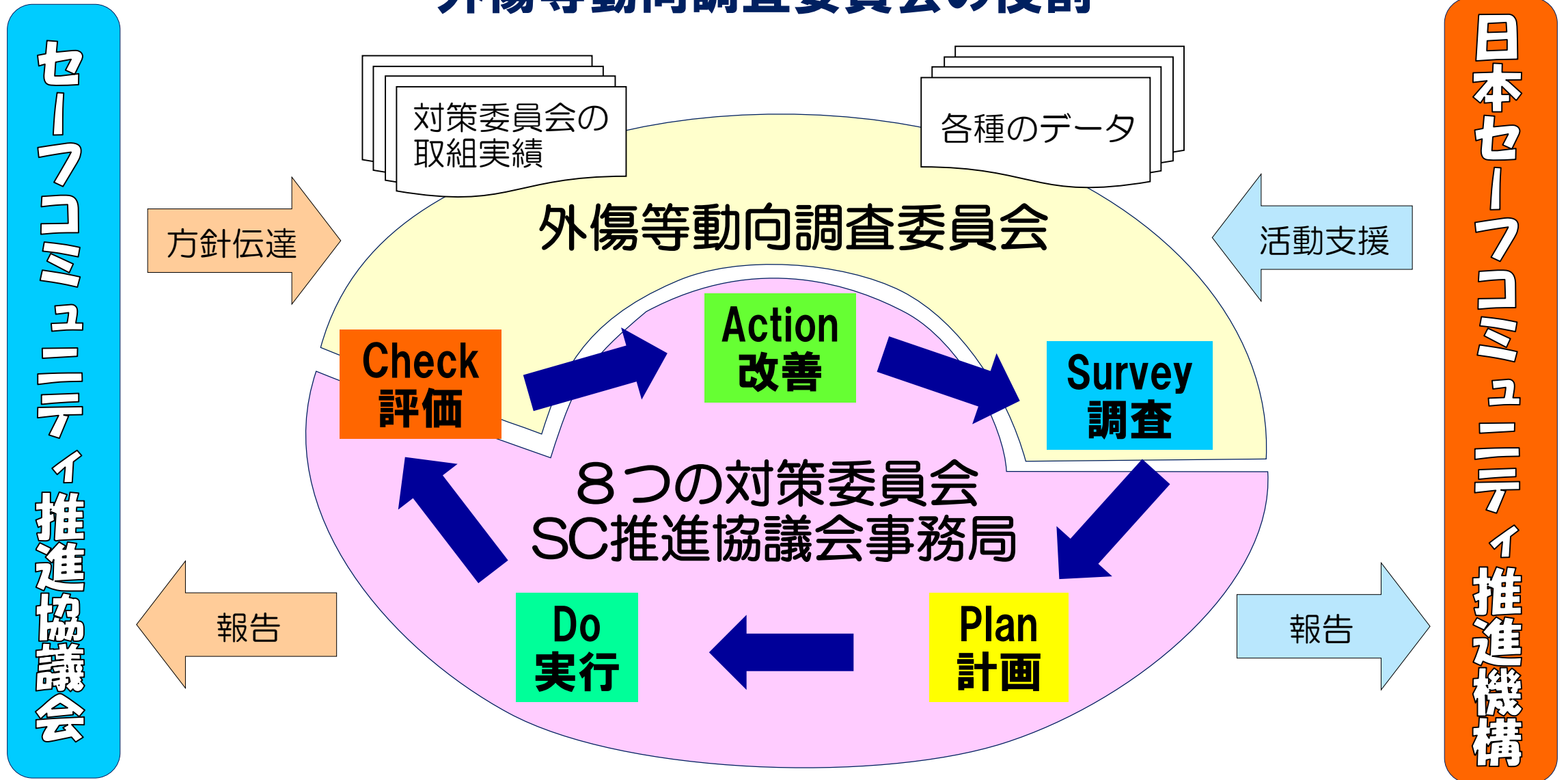
取り組みの内容・
過程・変化による効
果を測定・評価

ケガや事故に関するデータ収集や発生動向の分析を行ない、取り組みの効果や活動の質を高めるための助言や評価を行う必要がある。

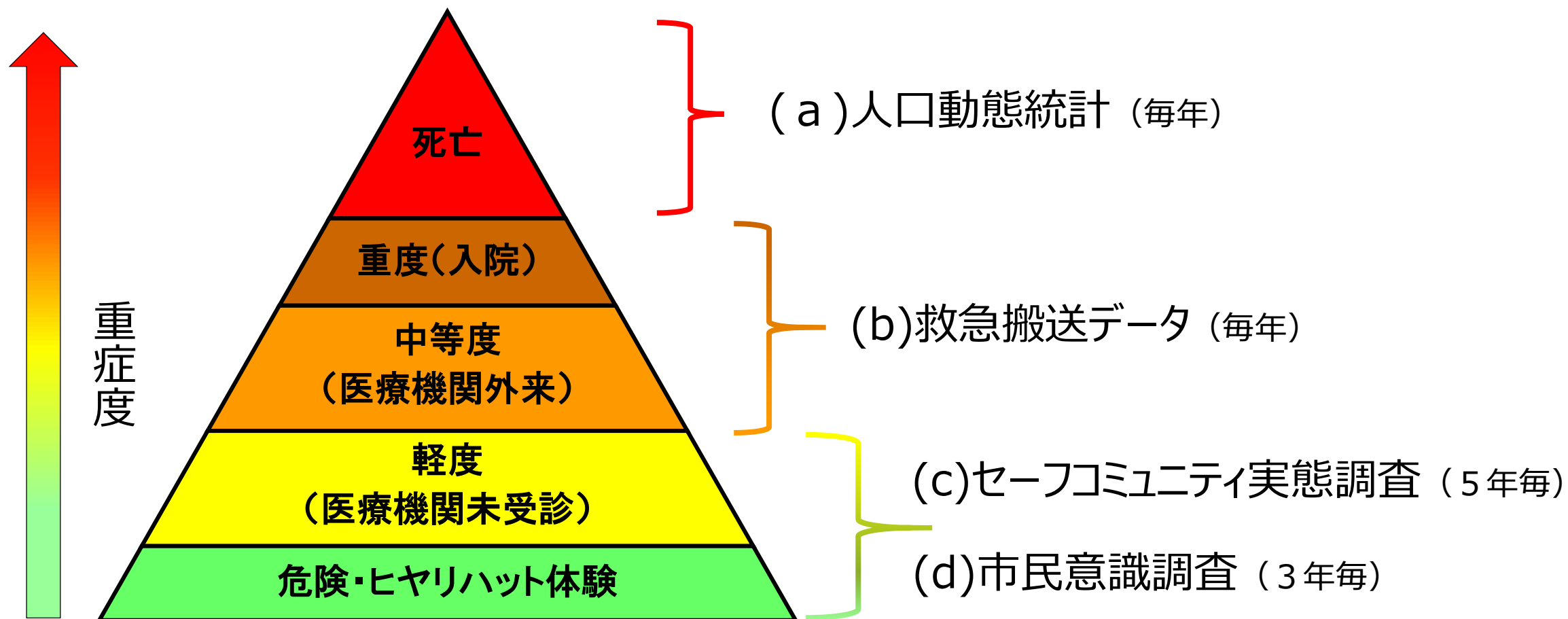


外傷等動向調査委員会の設置

外傷等動向調査委員会の役割



外傷の頻度と原因を記録する仕組み



日本では外傷全体の概要を把握できるデータ収集・分析の仕組みがない

→ **様々な既存データの活用・アンケート調査を実施**

外傷データの収集

対策委員会	外傷等動向調査委員会事務局で収集 外傷等動向調査委員会で分析				各対策委員会事務局で収集 各対策委員会で分析													
	(a) 人口動態統計	(b) 救急搬送データ	(c) セーフコミュニティ実態調査	(d) 久留米市民意識調査	警察統計	自 転 車 の 安 全 利 用 に 関 する ア ン ケ ー ト	次 世 代 育 成 に 関 する ニ ー ズ 調 査	家 庭 子 ど も 相 談 課 集 計 デ ー タ	福 岡 県 久 留 米 児 童 相 談 所 集 計 デ ー タ	学 校 災 害 給 付 請 求 デ ー タ	保 健 室 け が 調 べ	生 徒 へ の 安 全 ア ン ケ ー ト 調 査	高 齢 者 実 態 調 査	長 寿 支 援 課 統 計 資 料	男 女 平 等 推 進 セ ン タ ー 相 談 の 状 況	男 女 平 等 に 関 する 市 民 意 識 調 査	厚 生 労 働 白 書	気 象 統 計
交通安全	●	●	●	●	●	●												
児童虐待	●	●	●	●			●	●	●									
学校の安全	●	●	●	●						●	●	●						
高齢者の安全	●	●	●	●									●	●				
防犯			●	●	●													
DV防止	●	●	●	●				●							●	●		
自殺予防	●	●	●	●													●	
防災		●	●	●														●

再認証取得までに行った主な見直し

【①医療機関におけるアンケート調査の実施】

セーフコミュニティ先進自治体の事例研究



データ収集に向けた具体的内容の協議
(調査方法・質問項目・時期・対象者など)



2015年に実施

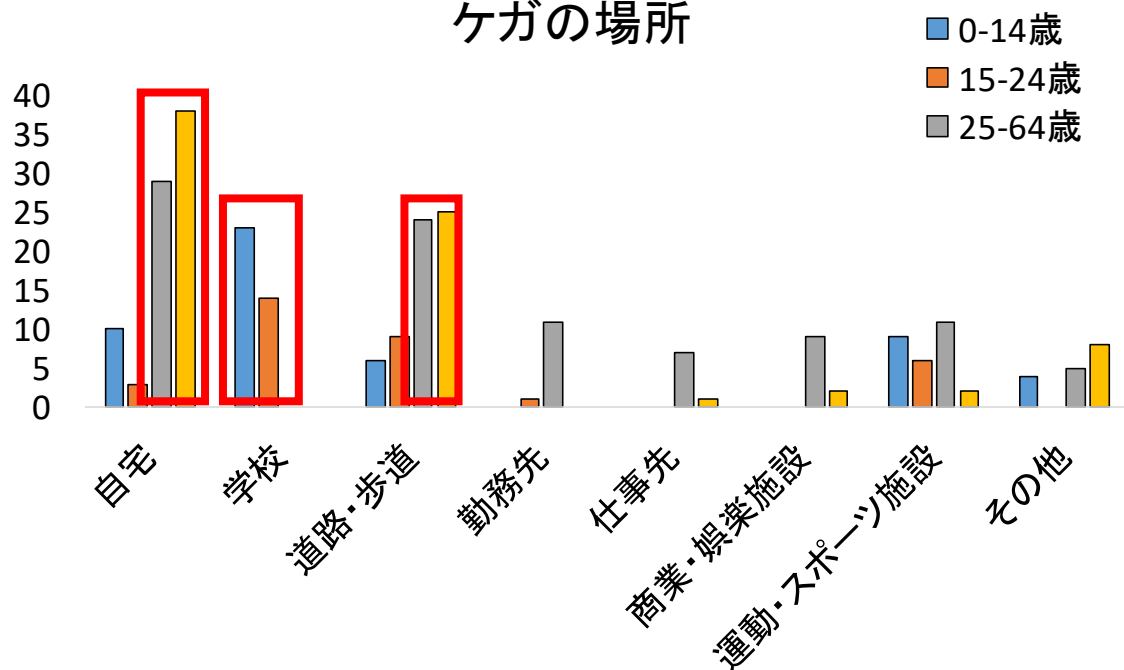
・整形外科、外科などの5医療機関で実施。
・3ヶ月で261回答



再認証取得までに行った主な見直し

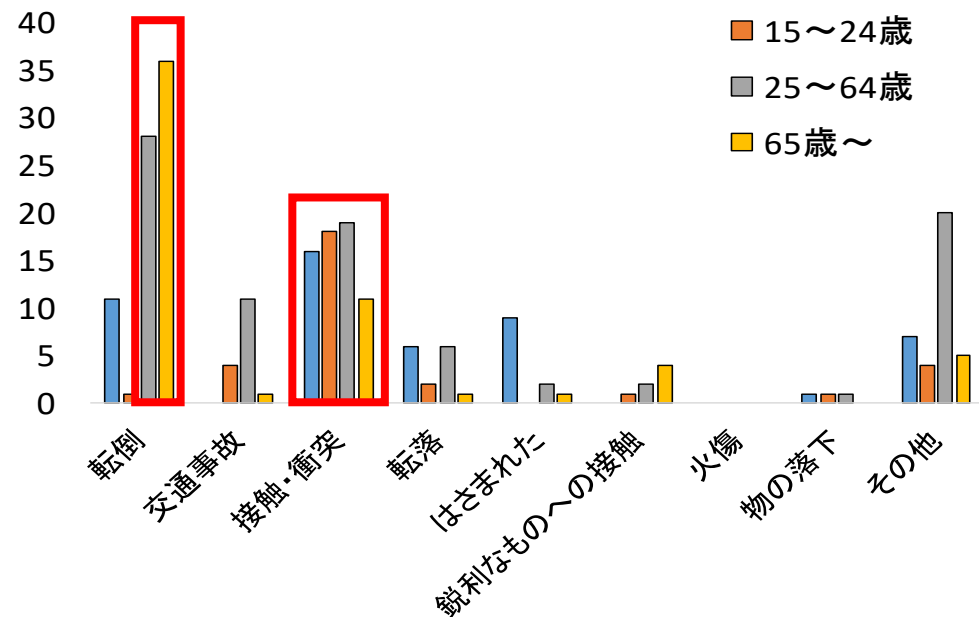
アンケート調査の結果

ケガの場所



子どもは「学校」、高齢者は「自宅」「道路・歩道」が多い

ケガの内容



高齢者は「転倒」、「接触・衝突」はどの年齢層にも多い

アンケート調査の結果は統計データと同じ傾向

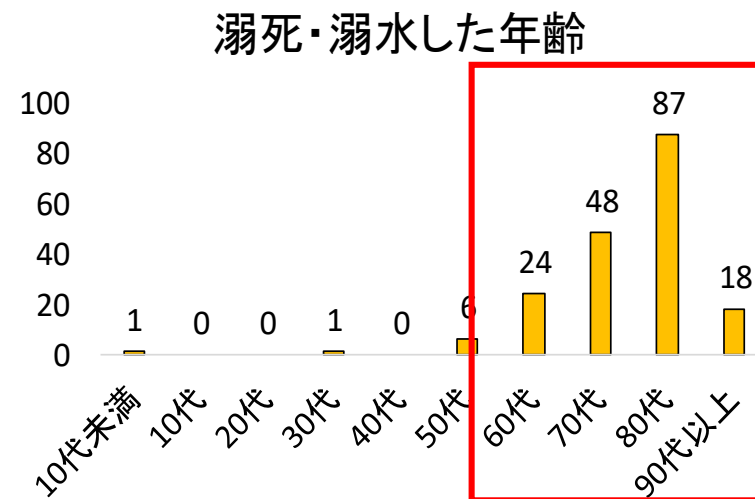
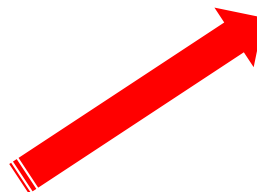
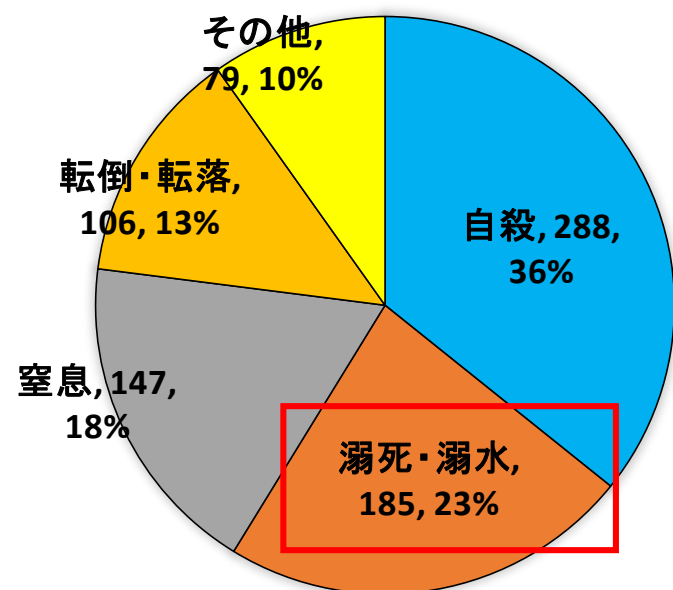


統計データの信頼性が確認できたため、アンケート調査は中止

再認証取得までに行った主な見直し

【②「溺死・溺水」に関するデータの分析】

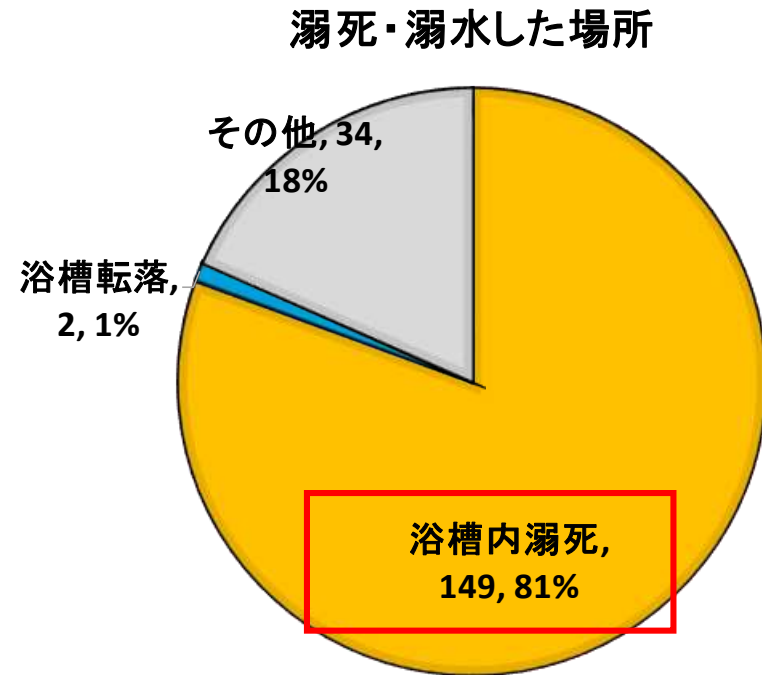
2017年10月の事前指導で、「高齢者の溺死・溺水」への対応について助言をいただく。



185人中、166人が65歳以上

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

再認証取得までに行った主な見直し



149人が浴槽内
8割が家庭内の浴槽



日本では...



お湯をはった浴槽に入り、
体を温める習慣がある。

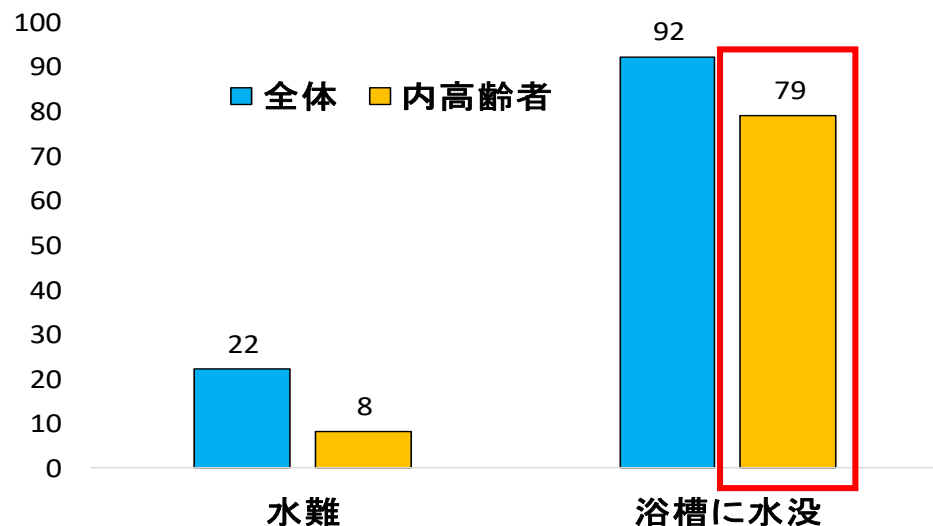


出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)

再認証取得までに行った主な見直し

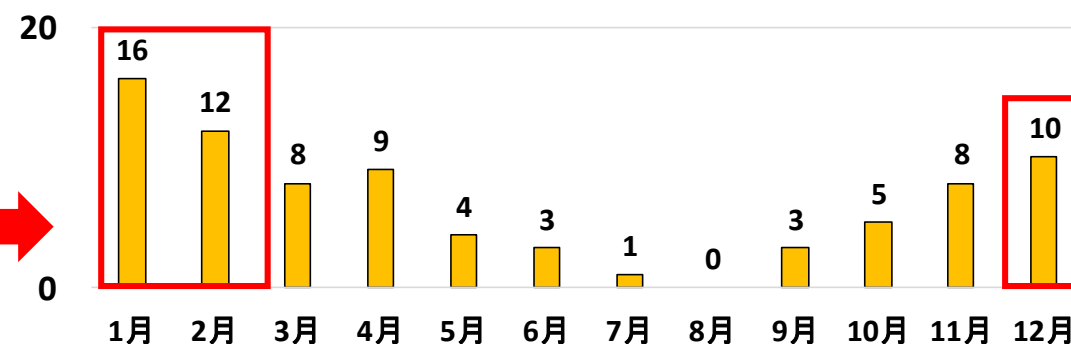
溺死関連で救急搬送された人

出典：救急搬送データ 2012年(H24年)～2016年(H28年)



79人が65歳以上
8割が高齢者

浴槽に水没した時期



79人のうち38人12月から2月
救急搬送される時期は冬

高齢者の安全対策委員会へ情報提供

高齢者の安全対策委員会で
対策を開始

2 再認証取得後の取組

2-1 委員構成の見直し

2-2 重点分野に関するデータの検証

2-3 対策委員会の取組成果の検証

委員会の構成メンバーの見直し①

区 分		所 属
医療機関	1	久留米大学医学部
	2	一般社団法人 久留米医師会
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター
損害保険事業者	4	損害保険ジャパン株式会社 久留米中央支社
関係機関	5	久留米広域消防本部 救急防災課
行政機関	6	久留米市保健所
	7	久留米市協働推進部

新メンバー

見直し理由① 交通事故に関する全国的な知識を活用

見直し理由② コミュニティの人材を活用

委員会の構成メンバーの見直し②

これまでに頂戴した全国的な知識に基づいた意見

- 久留米市は、幹線道路のバイパス整備が遅れており、市街地の交通量が多い。事故防止のためには、ドライバーだけでなく、歩行者のマナーアップも大切だと思う。
- 市街地の交通量の多さから、住宅地の細い道路を通行する車が多い。歩行者を守る運転についての啓発が大切だと思う。

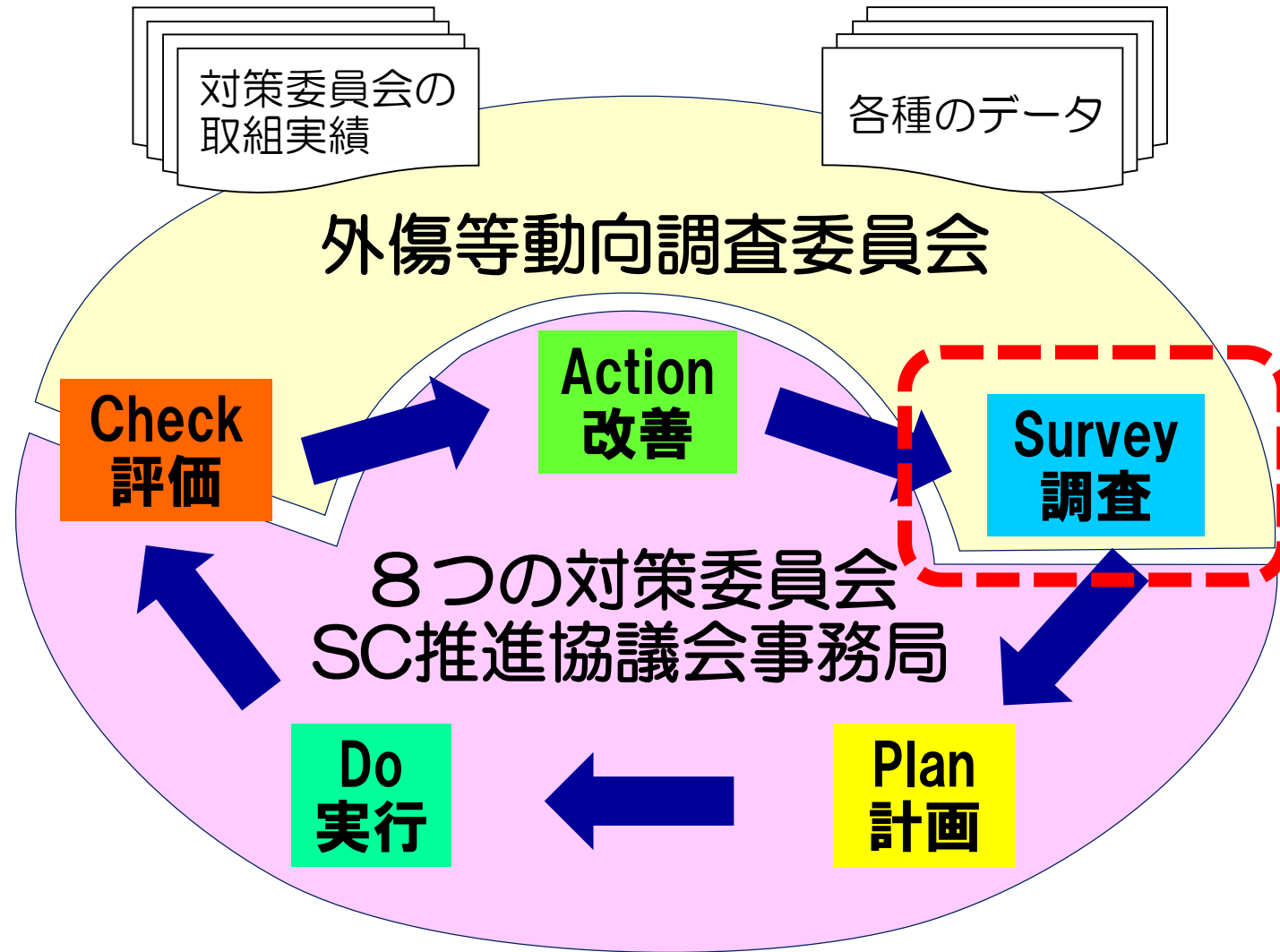
メンバー

久留米市協働推進部

見直し理由① 交通事故に関する全国的な知識を活用

見直し理由② コミュニティの人材を活用

2. 再認証取得後の取組 (2-2 重点分野に関するデータの検証)



久留米市の重点分野の設定背景

交通安全

(方向性)
交通事故を減らす



子どもの安全

(方向性)
子どものケガや
事故を予防する



高齢者の安全

(方向性)
高齢者のケガや
事故を予防する



犯罪・暴力の 予防

(方向性)
犯罪・暴力を予防する



自殺予防

(方向性)
自殺者をなくす



防災

(方向性)
災害に備える



重点分野の設定背景① 取組開始時の安全診断

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2007年～2011年の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9 歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19 歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 窒息 1 1		
20～29 歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 3	煙・火 他殺 1 1	
30～39 歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 4	転倒・転落 2	溺死・溺水 他殺 1 1
40～49 歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 他殺 3 3	溺死・溺水 窒息 2 2	転倒・転落 1
50～59 歳	自殺 86	交通事故 12	溺死・溺水 9	窒息 7	転倒・転落 5
60～69 歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79 歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89 歳	溺死・溺水 55	窒息 47	転倒・転落 24	自殺 21	交通事故 11
90 歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	交通事故 6	自殺 煙・火 2 2

(重点課題)

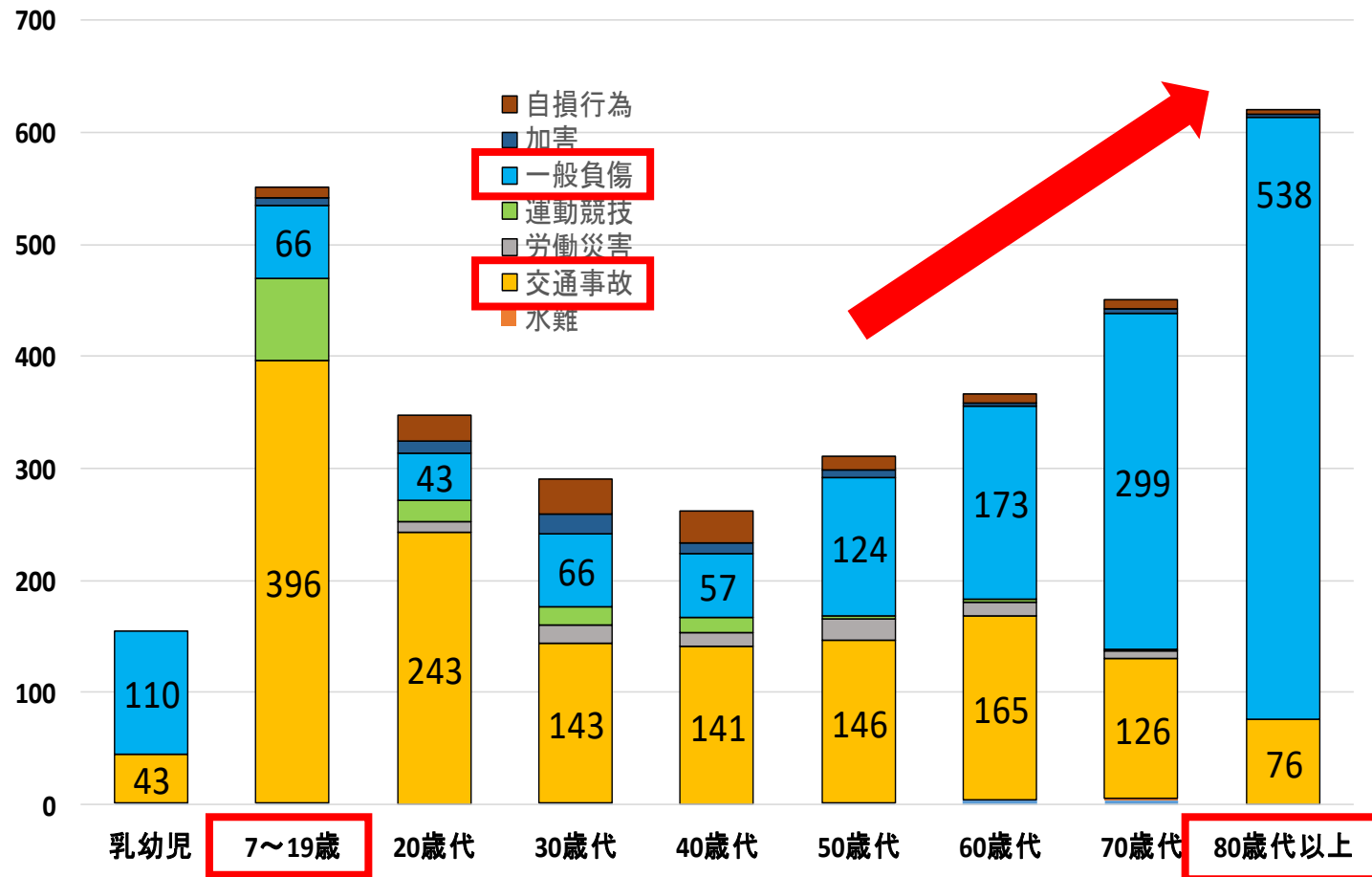
自殺予防の取り組みが必要

(重点課題)

交通安全の対策が必要

重点分野の設定背景② 取組開始時の安全診断

年代別救急搬送件数（病気を除く）



出典：救急搬送データ・・・2010年(H22年)

(重点課題)

高齢者の安全対策が必要

65歳以上の高齢者の救急搬送原因の第1位は、**転倒・転落・衝突**で、約65%を占める（病気を除く）。

出典：救急搬送データ 2010年(H22年)

(重点課題)

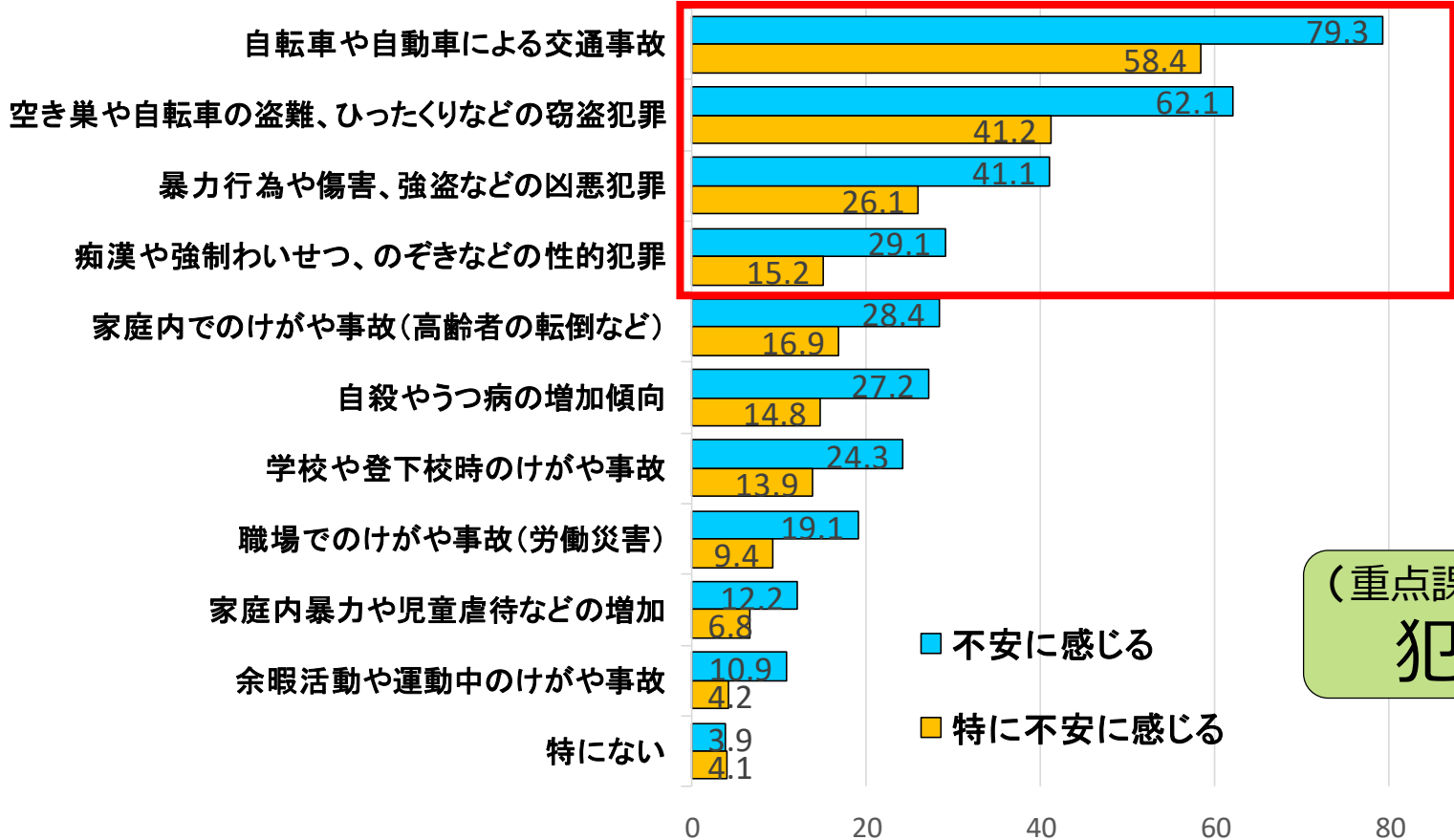
子どもの安全対策が必要

小学生が自宅以外でけがをした場所は、**学校**が最も多く、その割合も11.8%と比較的高い。

出典：久留米市民のけがや事故などについての
実態調査 2011年(H23年)

重点分野の設定背景③ 取組開始時の安全診断

Q. 普段生活する中で不安を感じることは何ですか？



出典：市民意識調査2011年(H23年)

10万人当たりの 一般刑法犯認知件数

久留米市	1,514件
福岡県	1,455件
全国	1,159件

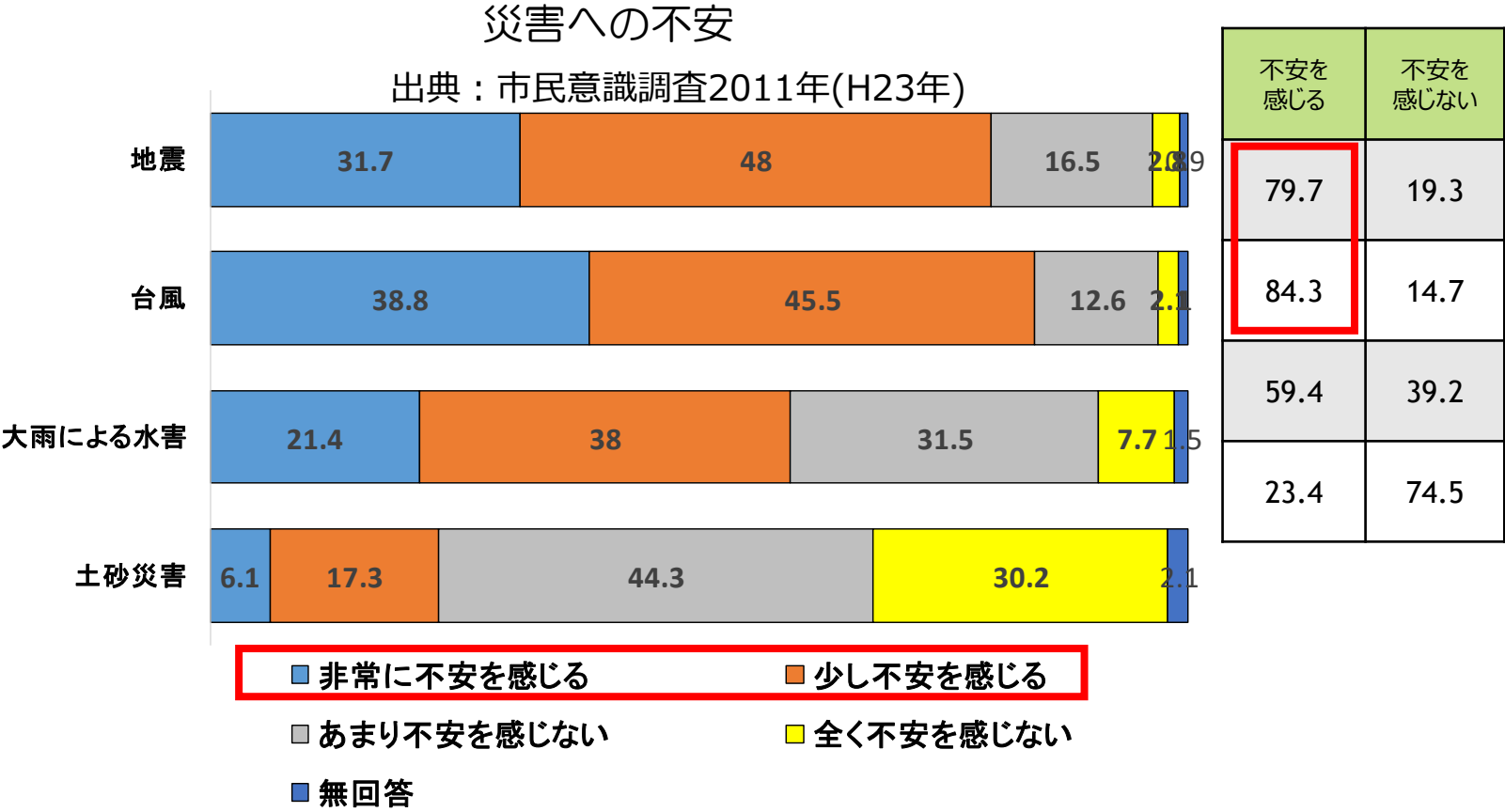
出典：警察統計 2011年(H23年)

(重点課題)

犯罪・暴力の予防が必要

重点分野の設定背景④ 取組開始時の安全診断

福岡県の主な災害 1991～2009		
1991	台風19号	死者11名
1999	台風18号	死者4名
2005	福岡西方沖地震	死者1名
2009	九州北部豪雨	死者10名



(重点課題)
防災対策が必要

久留米市の重点分野に関するデータの推移

交通安全

(方向性)
交通事故を減らす



子どもの安全

(方向性)
子どものケガや
事故を予防する



高齢者の安全

(方向性)
高齢者のケガや
事故を予防する



犯罪・暴力の 予防

(方向性)
犯罪・暴力を予防する



自殺予防

(方向性)
自殺者をなくす

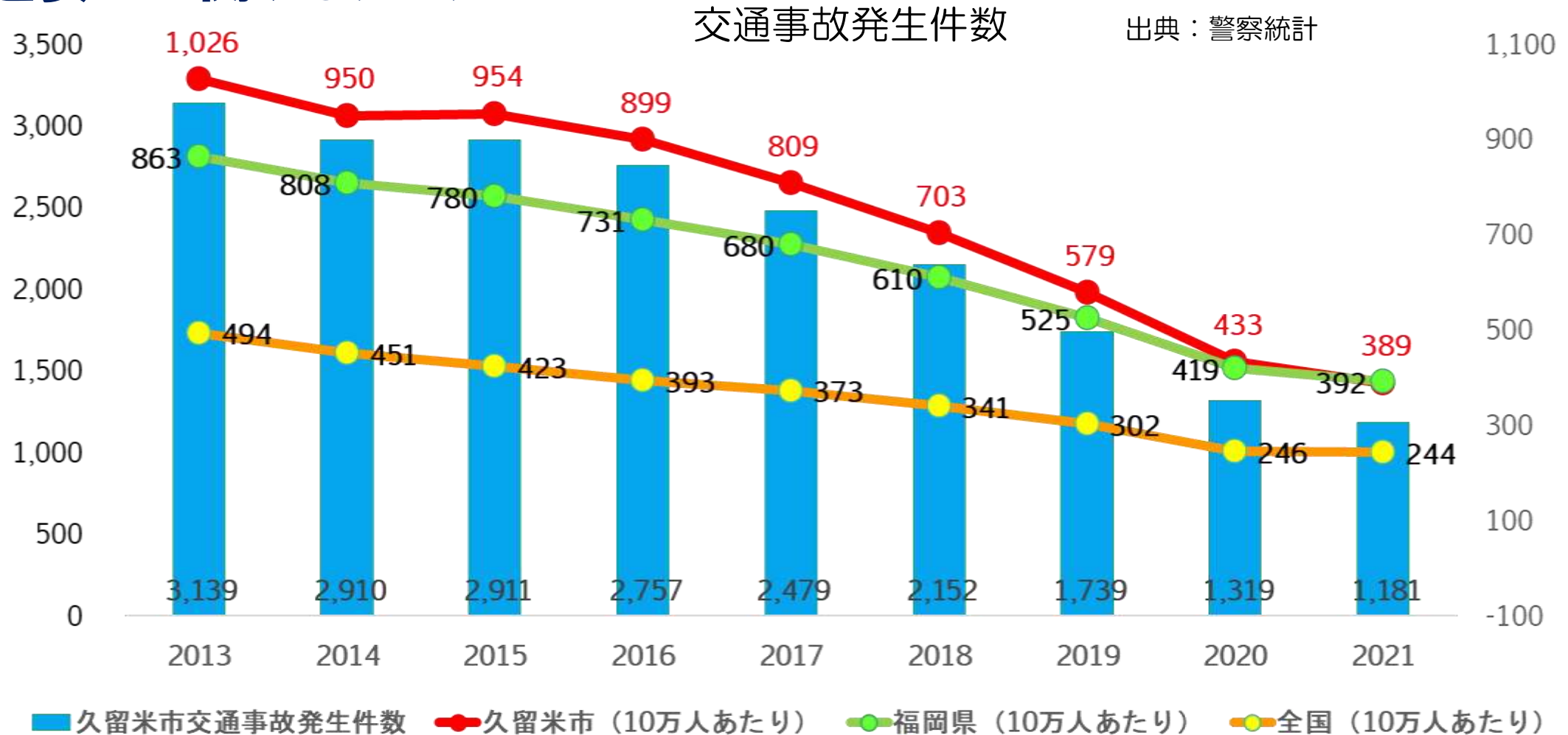


防災

(方向性)
災害に備える



交通安全に関するデータ

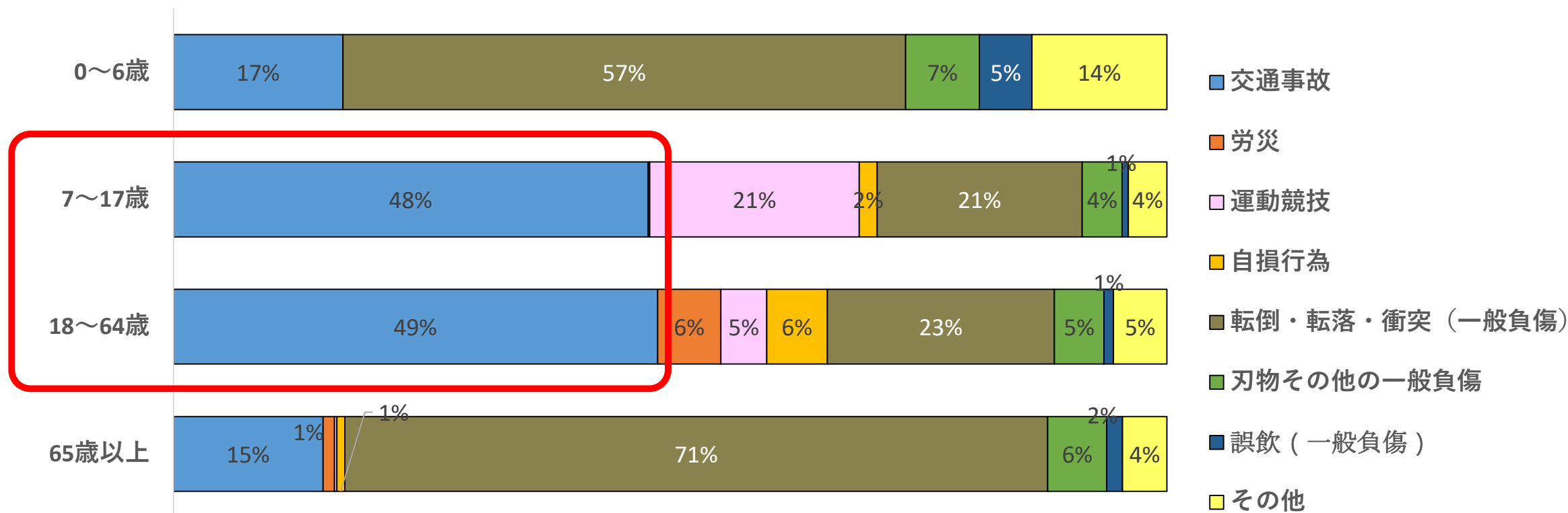


➤ 交通事故は減少しているが、全国に比べると交通事故の発生が多い。

交通安全に関するデータ

年齢層ごとの救急搬送原因

出典：救急搬送データ 2017年(H25年)～2021年(R3年)累計

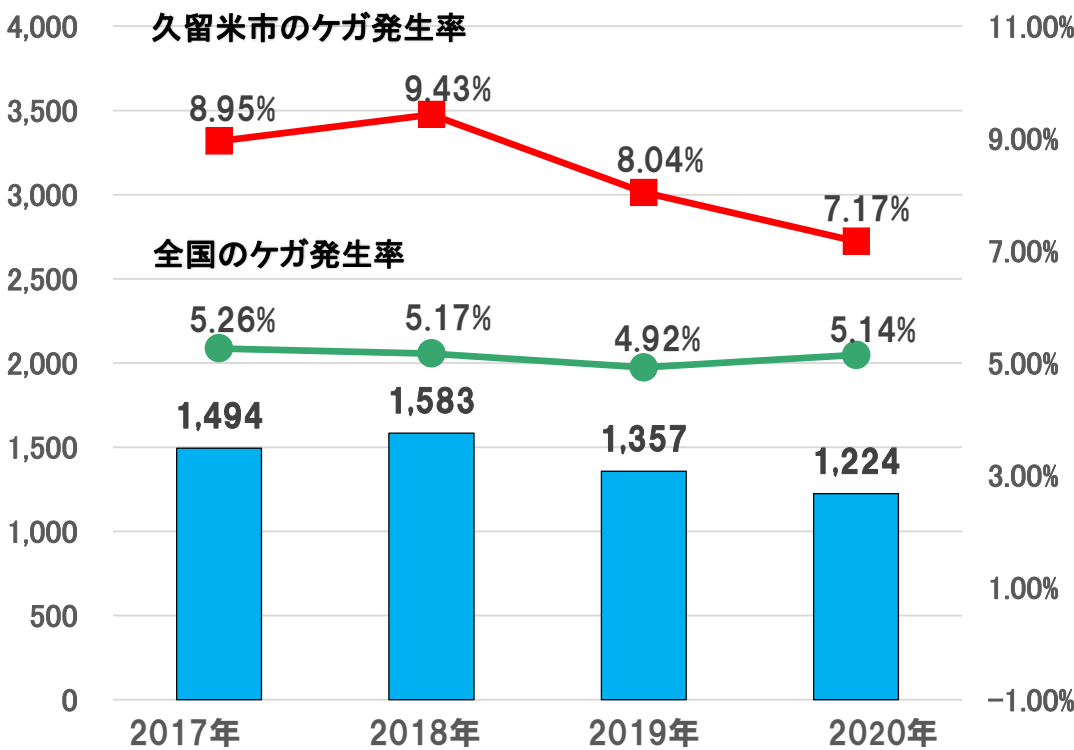


➤ 7～17歳と18～64歳では、「交通事故」の占める割合が約50%

子どもの安全に関するデータ

小学校でのケガの発生状況

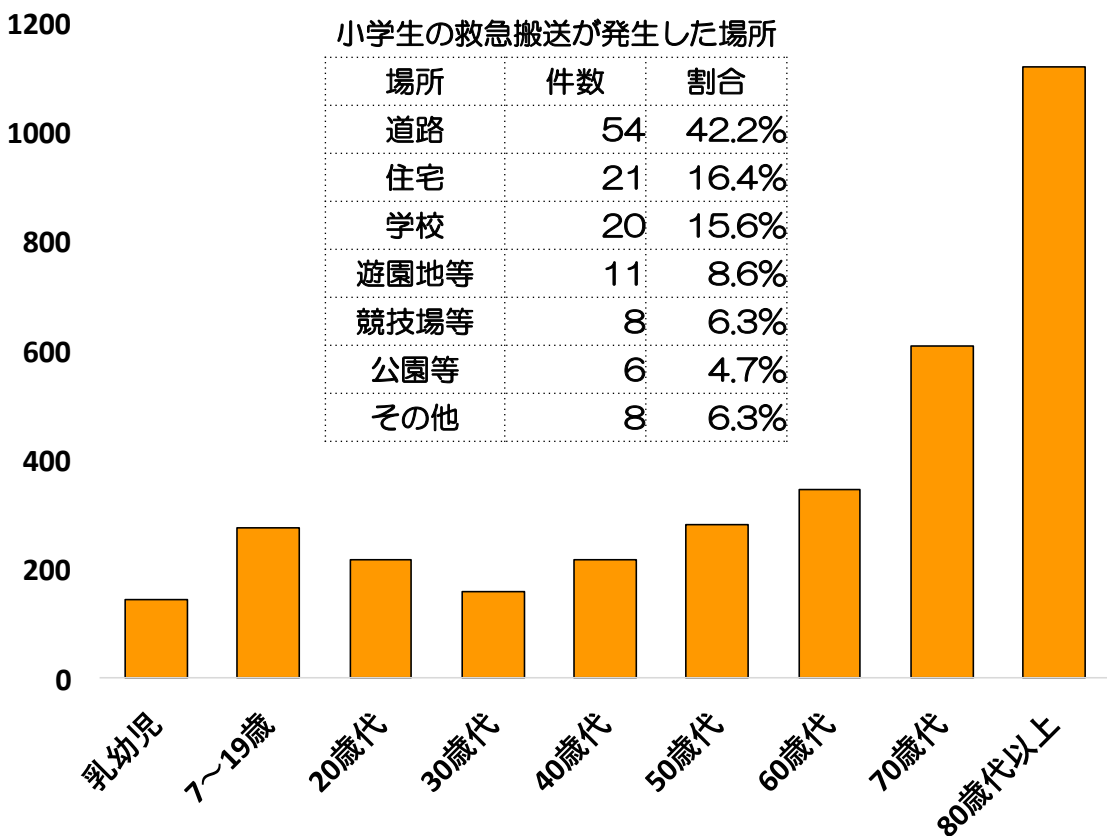
出典：日本スポーツ振興センター災害給データ



- 学校でのケガは減少
- 学校でのケガは、全国より多い

年代別救急搬送件数（病気を除く）

出典：救急搬送データ 2021年(R3年)



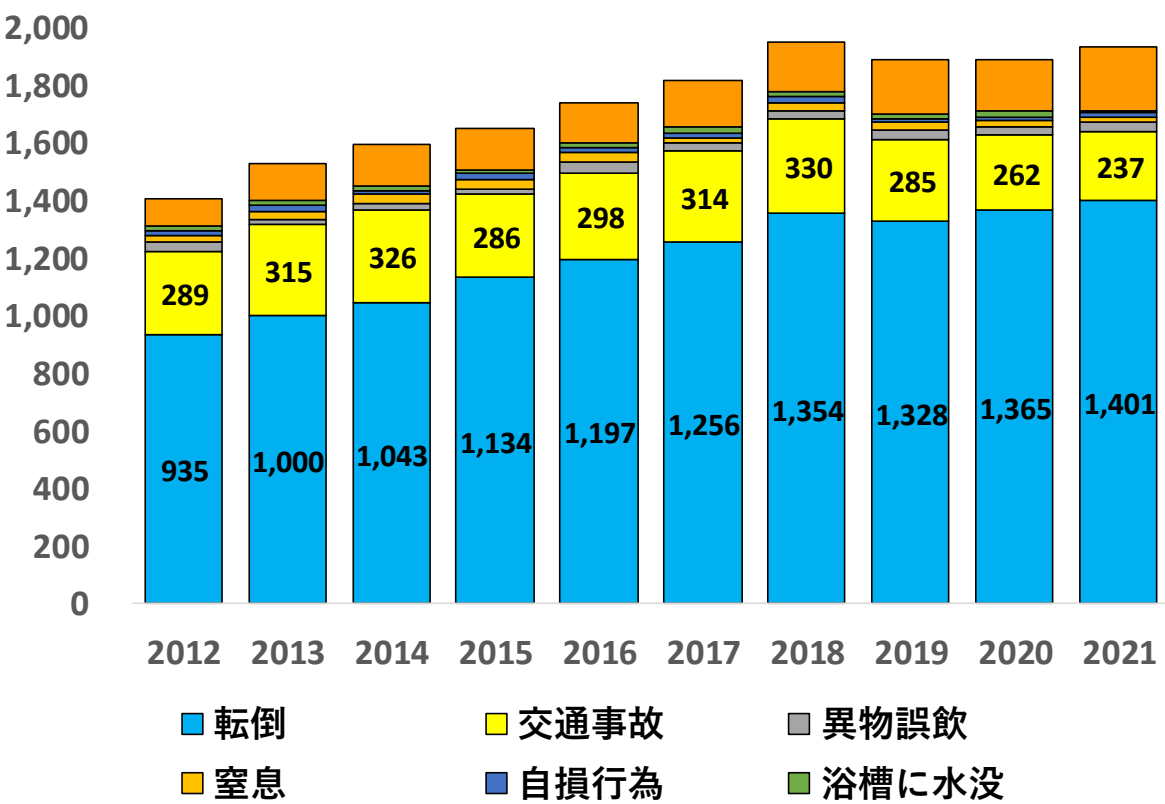
小学生の救急搬送が発生した場所

場所	件数	割合
道路	54	42.2%
住宅	21	16.4%
学校	20	15.6%
遊園地等	11	8.6%
競技場等	8	6.3%
公園等	6	4.7%
その他	8	6.3%

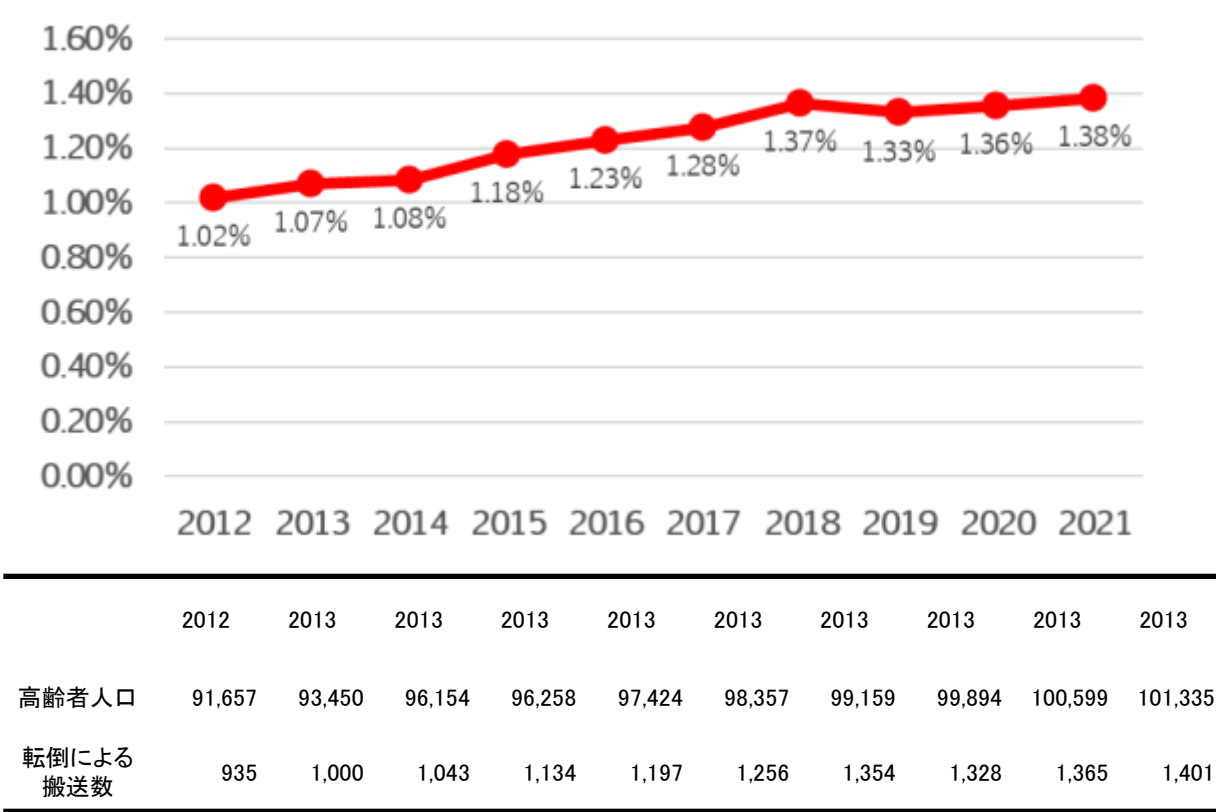
- 年代別に見ると、子どもの救急搬送は多い
- 小学生の救急搬送発生場所の上位は道路、住宅、学校

高齢者の安全に関するデータ

65歳以上の高齢者の救急搬送原因 出典：救急搬送データ



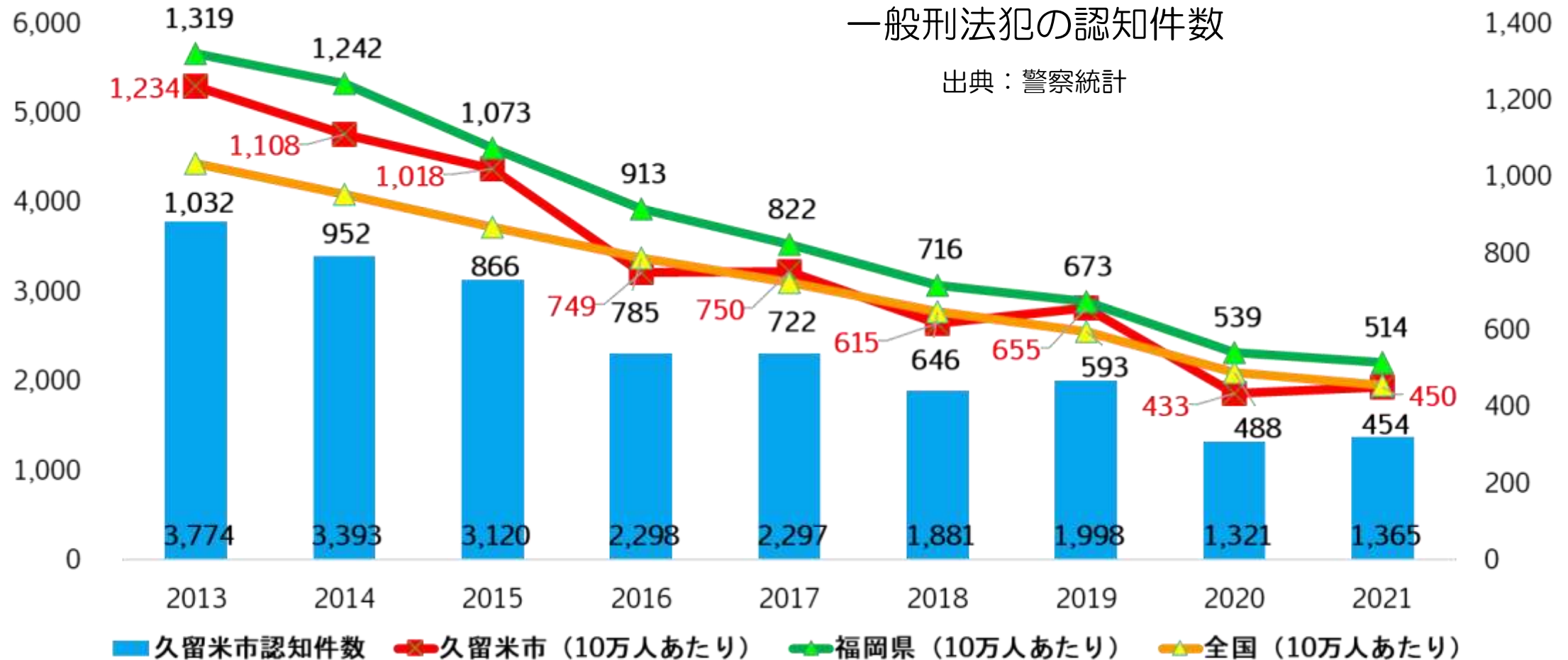
高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合



- 高齢者の救急搬送は増加傾向
- 転倒による救急搬送が増加

- 高齢者人口に対する転倒による救急搬送の割合が増加

犯罪・暴力の予防に関するデータ



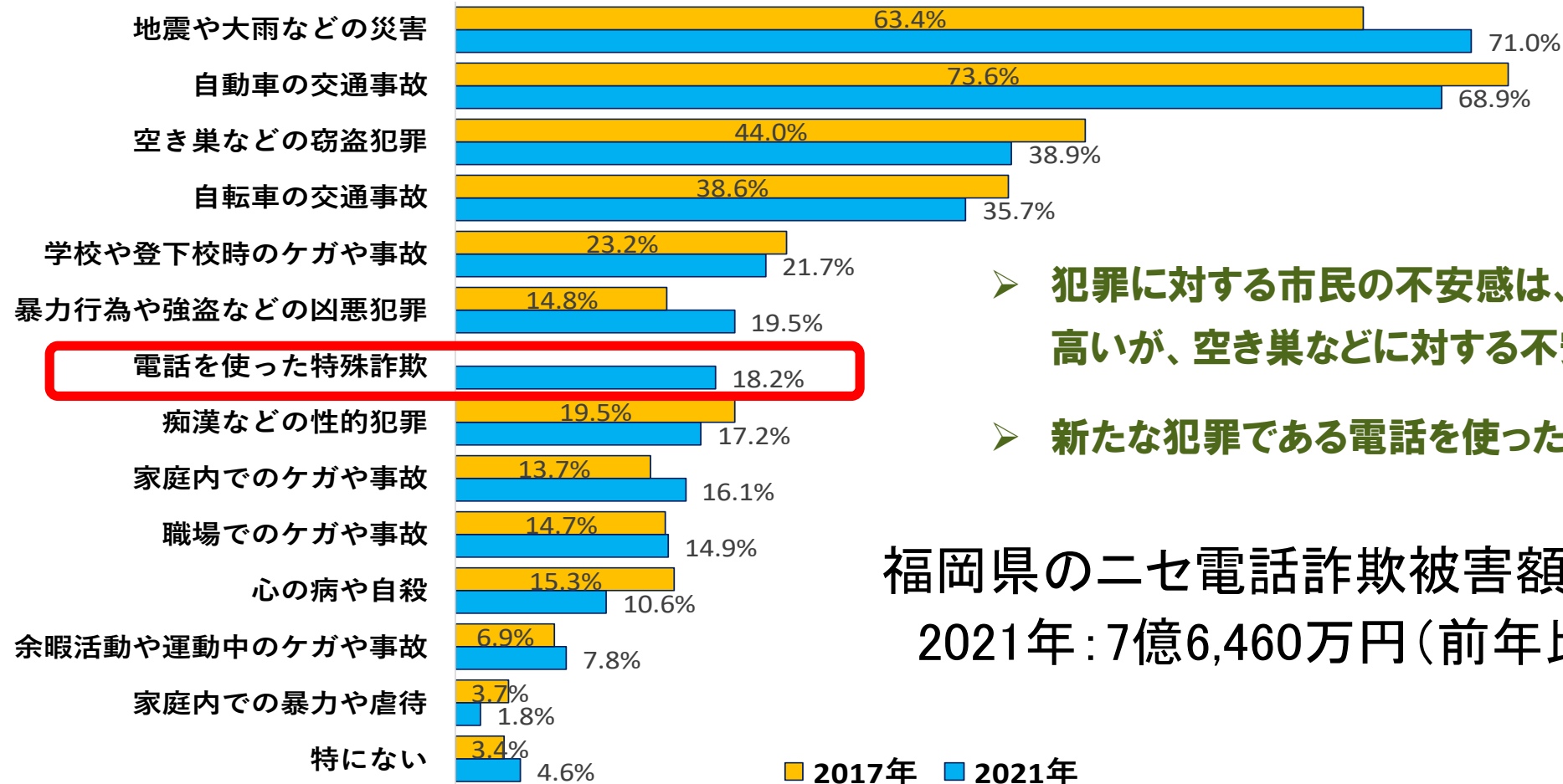
➤ 一般刑法犯の認知件数は減少

➤ 近年、人口10万人あたりの件数は、全国を下回る

犯罪・暴力の予防に関するデータ

ふだんの生活で不安に感じること

出典：市民意識調査 2021年(R3年)



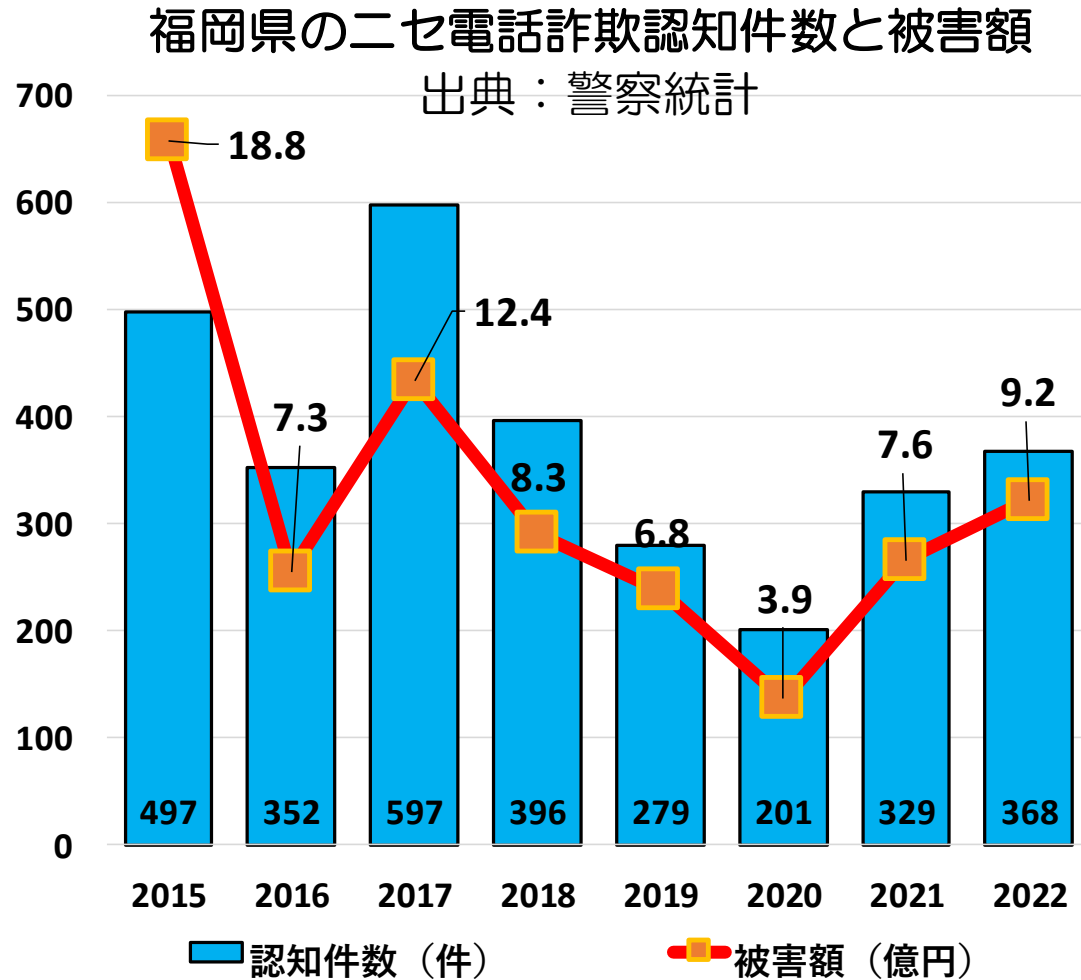
➤ 犯罪に対する市民の不安感は、災害、交通事故の次に高いが、空き巣などに対する不安感は低下

➤ 新たな犯罪である電話を使った詐欺への不安感が発生

福岡県の二セ電話詐欺被害額

2021年：7億6,460万円(前年比97%増)

犯罪・暴力の予防に関するデータ



- 減少傾向にあった認知件数、被害額が2021年から増加に転じた。
- 2022年から、新たな二セ電話対策を開始。
(電話に取り付ける防止装置を助成)

久留米市と福岡県の二セ電話詐欺被害状況の比較

		2021年	2022年
福岡県	認知件数	329件	368件
	被害額	7億6,460万円	9億2,283万円
久留米市	認知件数	22件	15件
	被害額	3,418万円	2,934万円

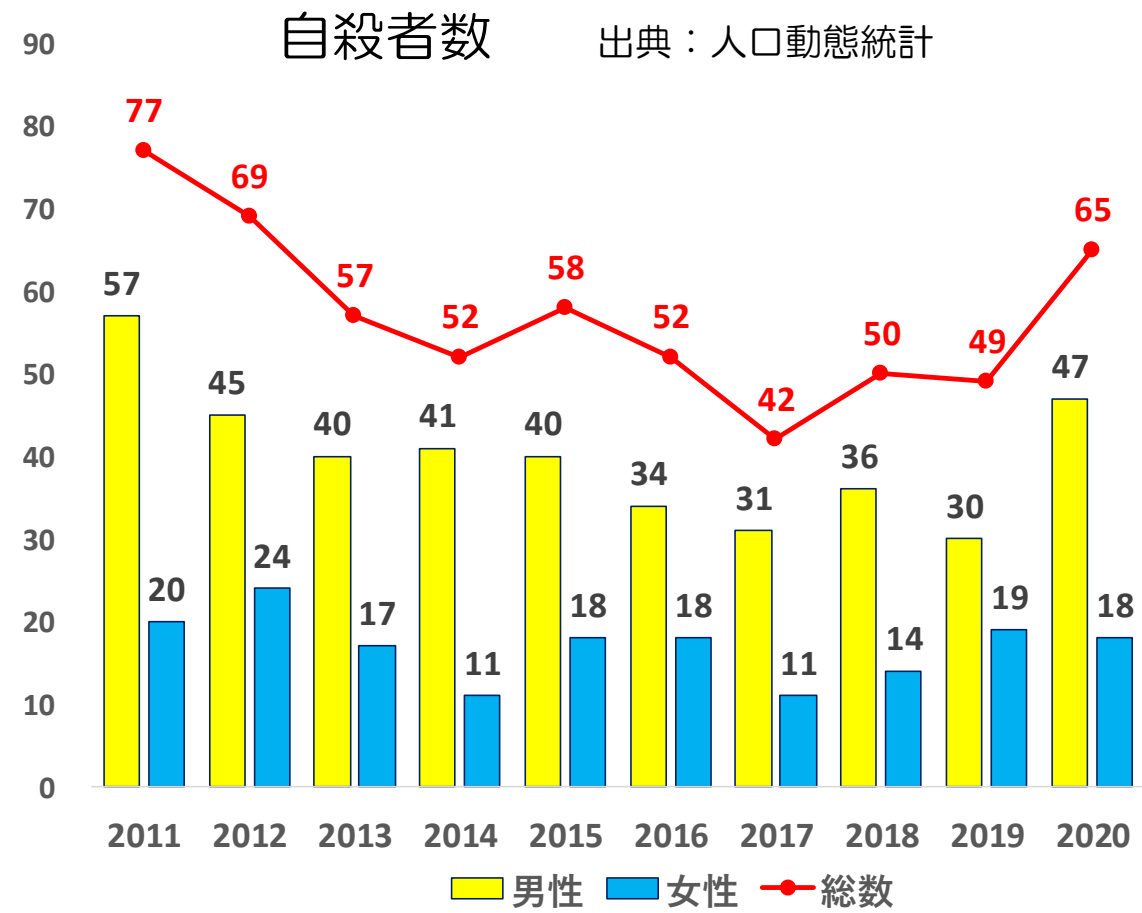
出典：警察統計

久留米市は被害が減少



セーフコミュニティの成果

自殺予防に関するデータ



➤ 自殺者数は減少傾向にあったが、2020年は増加

病気を含む年齢層別の死亡原因

出典：人口動態統計 2015年(H27年)～2019年(R1年)累計

年齢層	1 位		2 位		3 位	
0～9 歳	染色体異常	14	感染症	3	周産期の病態	3
10～19 歳	自殺	12	不慮の事故	4	新生物(腫瘍)	4
20～29 歳	自殺	27	不慮の事故	7	新生物(腫瘍)	7
30～39 歳	新生物(腫瘍)	27	自殺	23	不慮の事故	6
40～49 歳	新生物(腫瘍)	124	自殺	41	脳血管疾患	28
50～59 歳	新生物(腫瘍)	255	自殺	49	脳血管疾患	45
60～69 歳	新生物(腫瘍)	846	心疾患	119	脳血管疾患	96
70～79 歳	新生物(腫瘍)	1,320	心疾患	234	脳血管疾患	193
80～89 歳	新生物(腫瘍)	1,652	心疾患	678	肺炎	489
90 歳～	心疾患	670	老衰	654	新生物(腫瘍)	602

➤ 10歳代、20歳代では、自殺が死亡原因の第1位、30歳代、40歳代、50歳代では第2位

防災に関するデータ

近年の大雨と浸水被害の状況

出典：久留米市都市建設部調べ

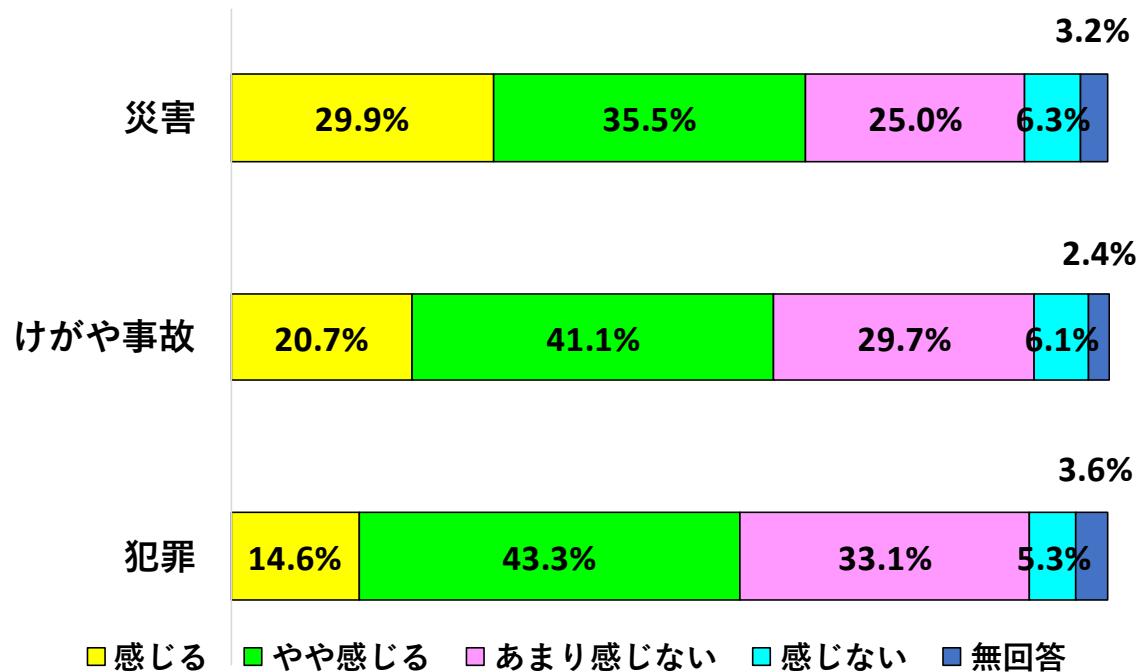
	1時間 最大雨量 (mm)	3時間 最大雨量 (mm)	24時間 最大雨量 (mm)	48時間 最大雨量 (mm)	72時間 最大雨量 (mm)	総雨量 (mm)	浸水件数
2018年 7月	40.5		279.5 観測史上1位	383.5 観測史上1位		386.0 (7/5～8)	床上： 423件 床下： 1,011件
2019年 7月	90.0 観測史上1位	177.5 観測史上1位	335.5 観測史上1位	402.5 観測史上1位		474.5 (7/18～23)	床上： 196件 床下： 120件
2019年 7月	60.5	147.0	33.0	408.0		408.0 (8/26～29)	床上： 27件 床下： 24件
2020年 6月	92.5 観測史上1位		193.5	194.0		194.0 (6/26～29)	
2020年 7月	48.0	195.5	360.5 観測史上1位	483.0 観測史上1位	529.0	735.0 (7/5～10)	床上： 325件 床下： 1,620件
2021年 8月	72.0		367.0 観測史上1位	572.5 観測史上1位	718.5 観測史上1位	896.5 (8/11～10)	床上： 518件 床下： 2,194件

➤ 2018年から2021年まで、4年連続で、住宅の浸水被害が発生！

防災に関するデータ

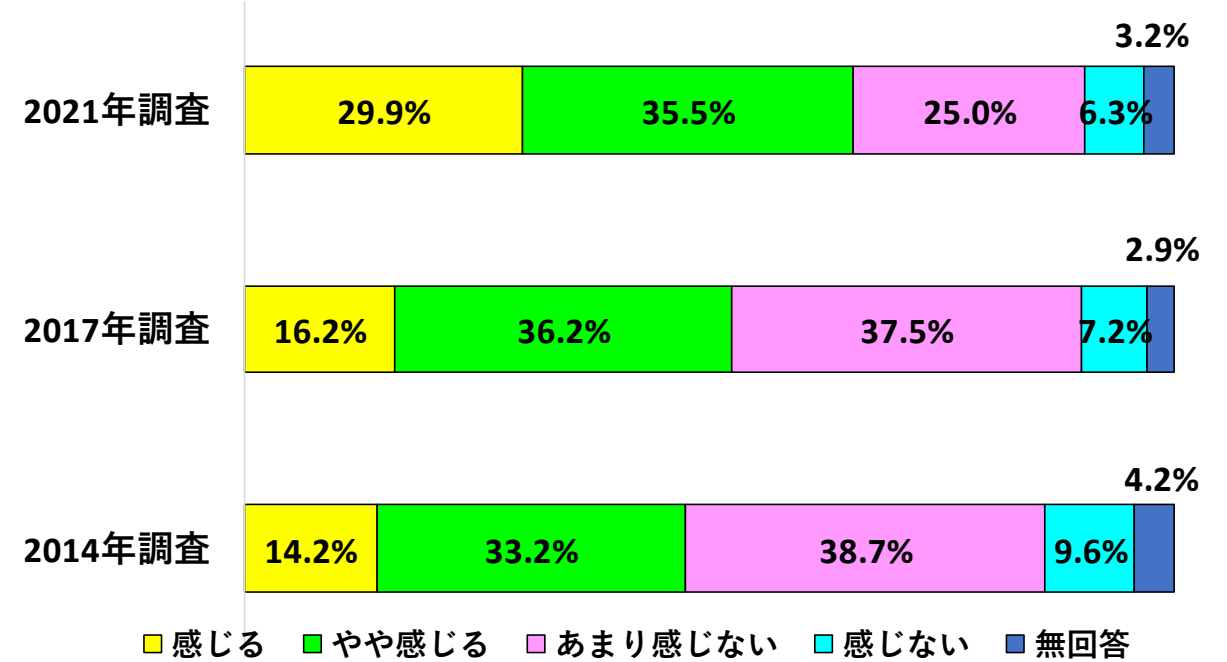
けがや事故、犯罪、災害に対する不安感

出典：久留米市民意識調査 2021年（R3）



災害に対する不安感の経年変化

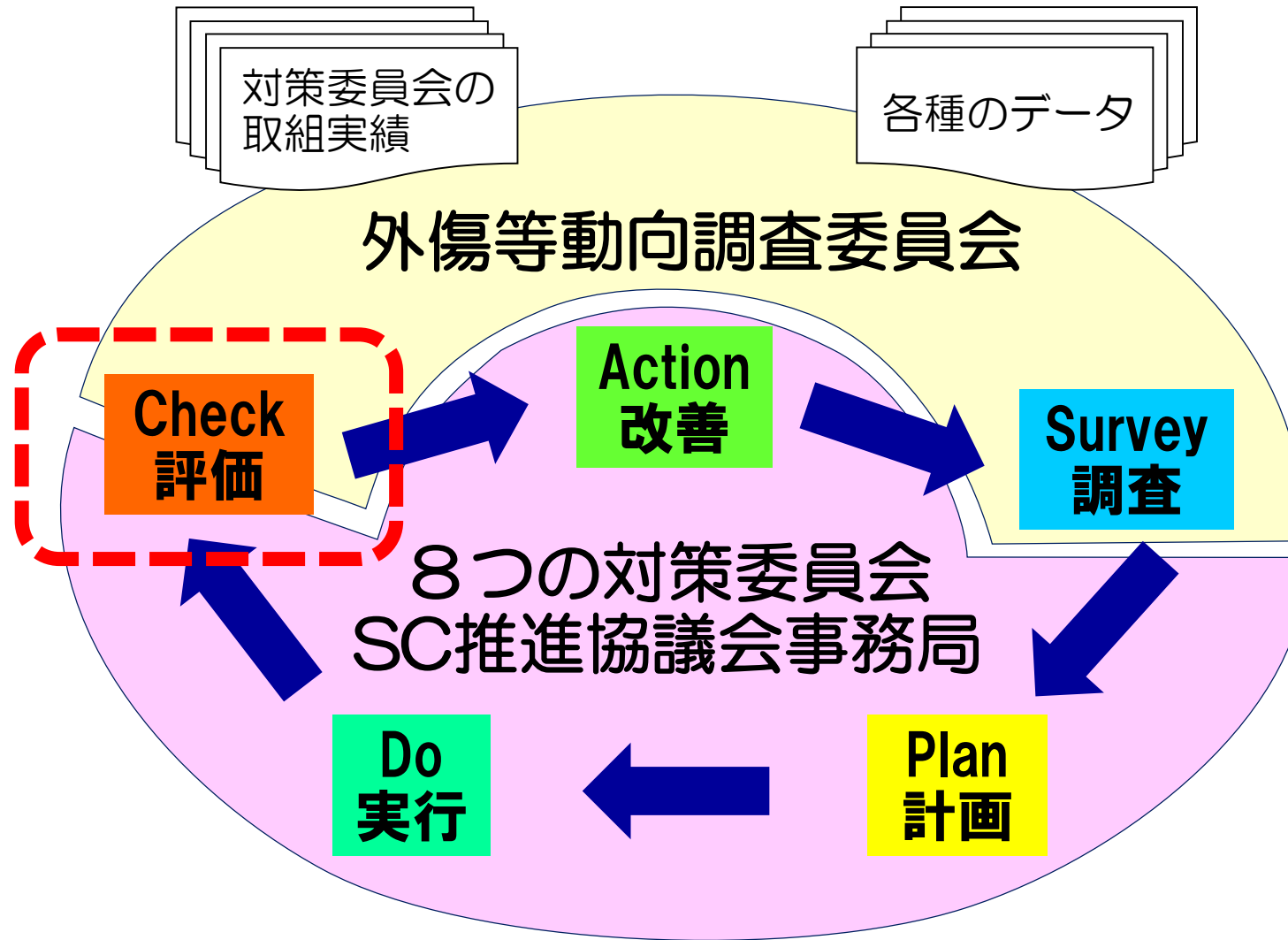
出典：久留米市民意識調査



➤ けがや事故、犯罪に比べ、災害の不安感が高い

➤ 災害に対する不安感が増大

2. 再認証取得後の取組 (2-3 対策委員会の取組成果の検証)

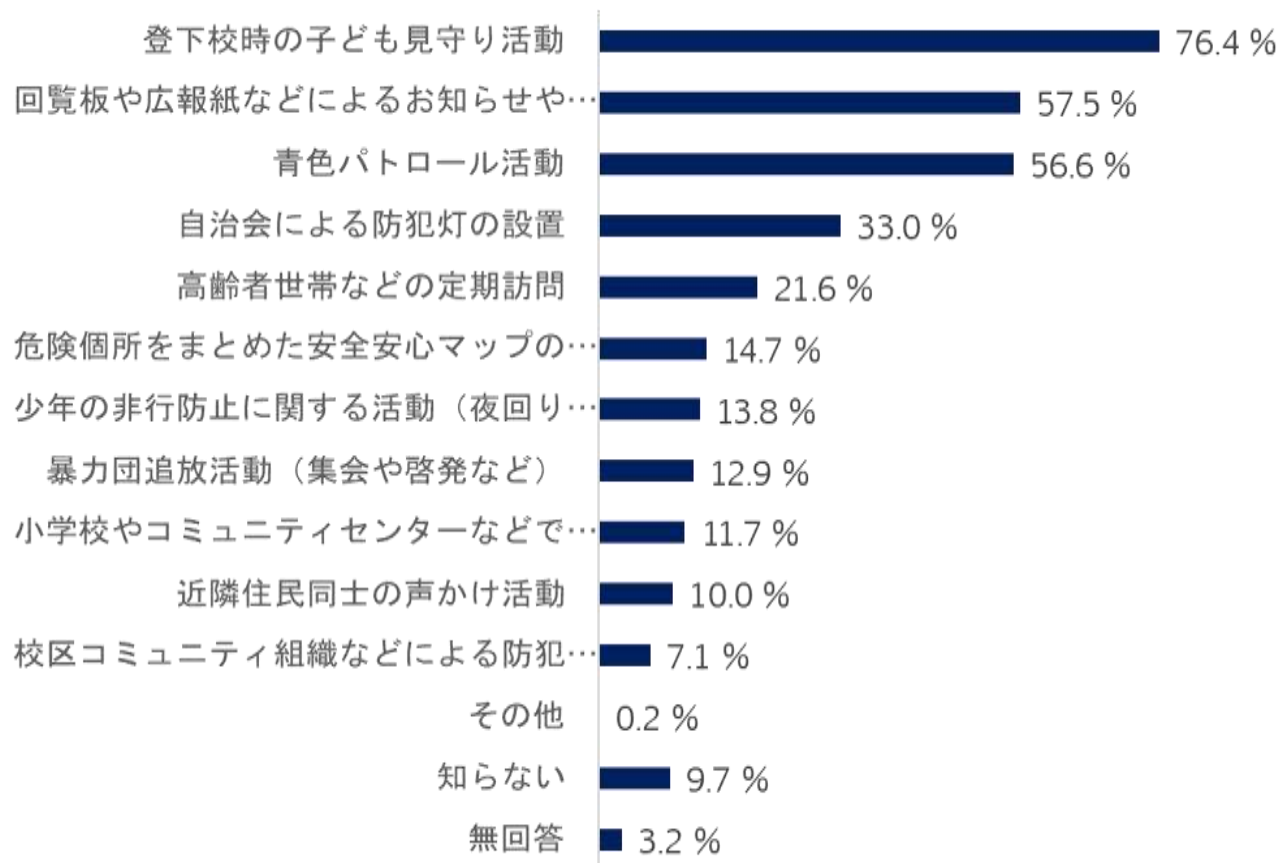


推進協議会・対策委員会へのアドバイス例①

セーフコミュニティの普及啓発に関するアドバイス

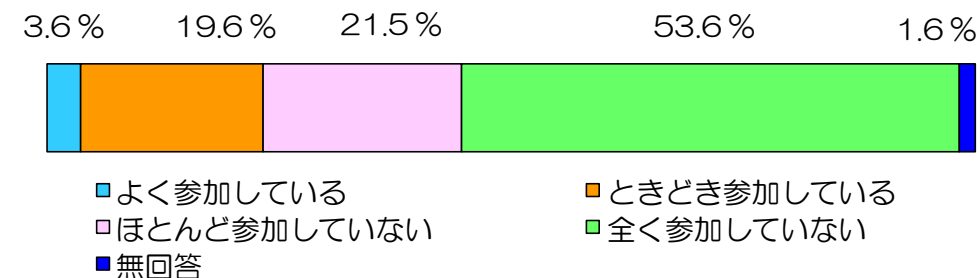
防犯活動の認知度

出典：セーフコミュニティ実態調査 2021年(R8年)



防犯活動の参加状況

出典：セーフコミュニティ実態調査 2021年(R8年)



「全く参加していない」= 53.6%

「ほとんど参加していない」= 21.5%

- 安全安心のまちづくりを持続していくためには、市民の参加を増やすことが大切である。
- セーフコミュニティの取組には、市民によく知られているものがある。
- 一方で、取組に参加する市民は少ない。

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例①

セーフコミュニティの普及啓発に関するアドバイス

アドバイス

安全安心のまちづくりの持続には、市民参加の拡大が必要である。
市民の認識を高めるため、セーフコミュニティの取組を、ローカルTVで放映してはどうか。
安全安心に取り組む身近な市民の姿や思いを目にすることは、参加意欲の向上に繋がると思う。
映像は、アーカイブとして活用出来たら良い。

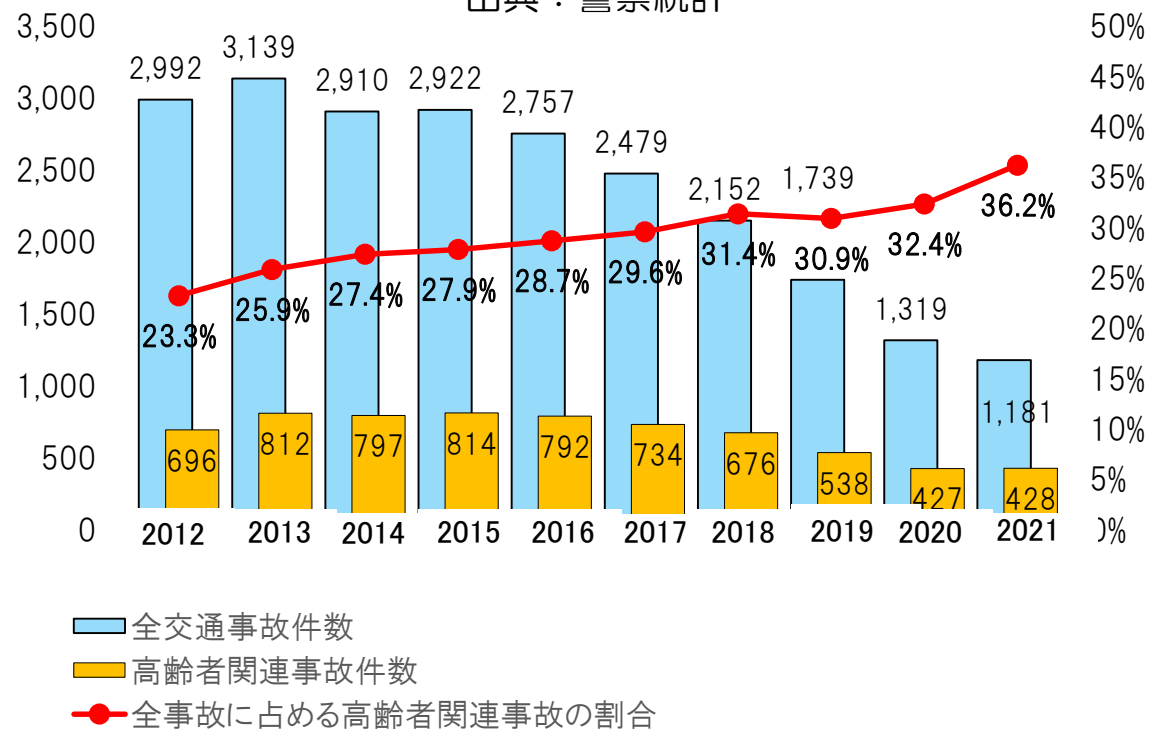
セーフコミュニティ推進協議会 事務局の対応

セーフコミュニティの取組や市民の声を動画にして、公式YouTubeにシリーズ配信していきたい。
アーカイブとしての活用や、地元のケーブルTVでの放映を検討する。

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例② 高齢者の交通事故防止に関するアドバイス

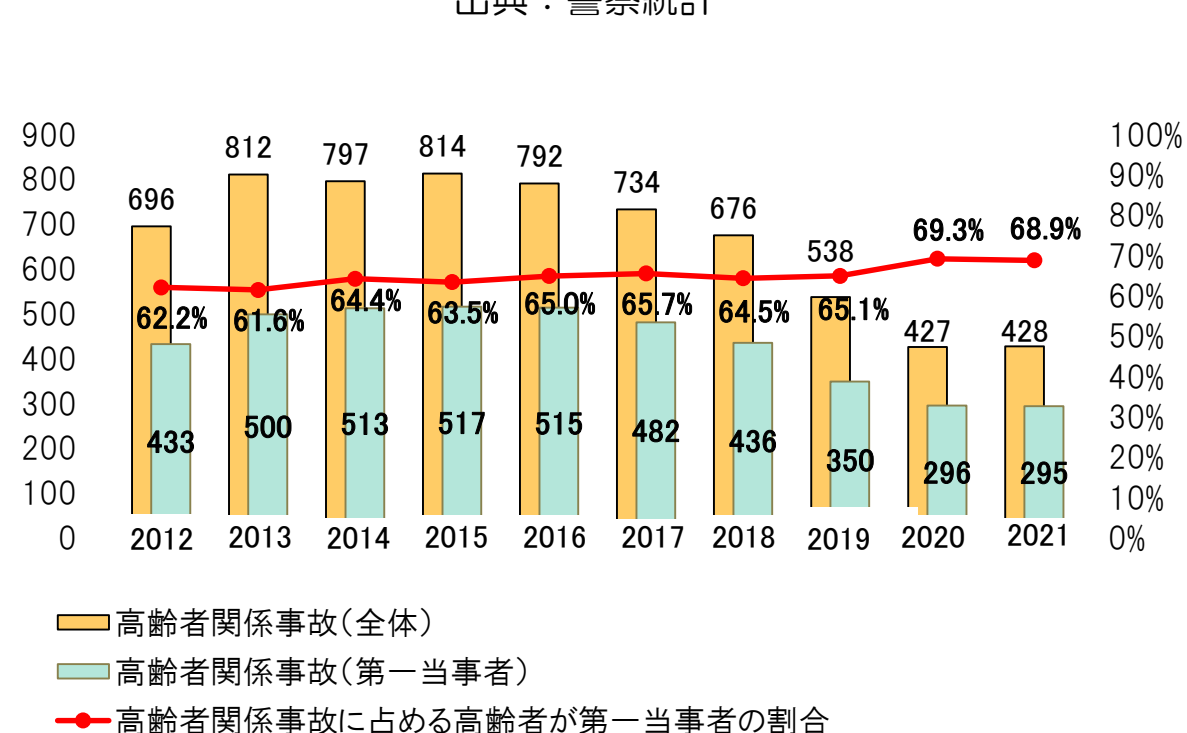
全交通事故に占める高齢者関連事故の割合

出典：警察統計



高齢者関連事故に占める、高齢者が第一当事者(加害者)である割合

出典：警察統計



- 全交通事故に占める高齢者関連事故の割合、高齢者関連事故に占める高齢者の加害事故の割合が増加
- (公財) 交通事故総合分析センターから、認知機能の衰えた者は、人身事故の当事者となる割合が増すことが報告されており、高齢化の進展に伴い、高齢者の事故リスクは、高い水準で維持されと考えられる

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例②

高齢者の交通事故防止に関するアドバイス

アドバイス

高齢者関連の事故を減らすには、運転をしないことが最もよい。
成果指標を見ると自主返納の件数が減少している。
運転免許の自主返納を促す対策の実施を検討できないか？

交通安全対策委員会の対応

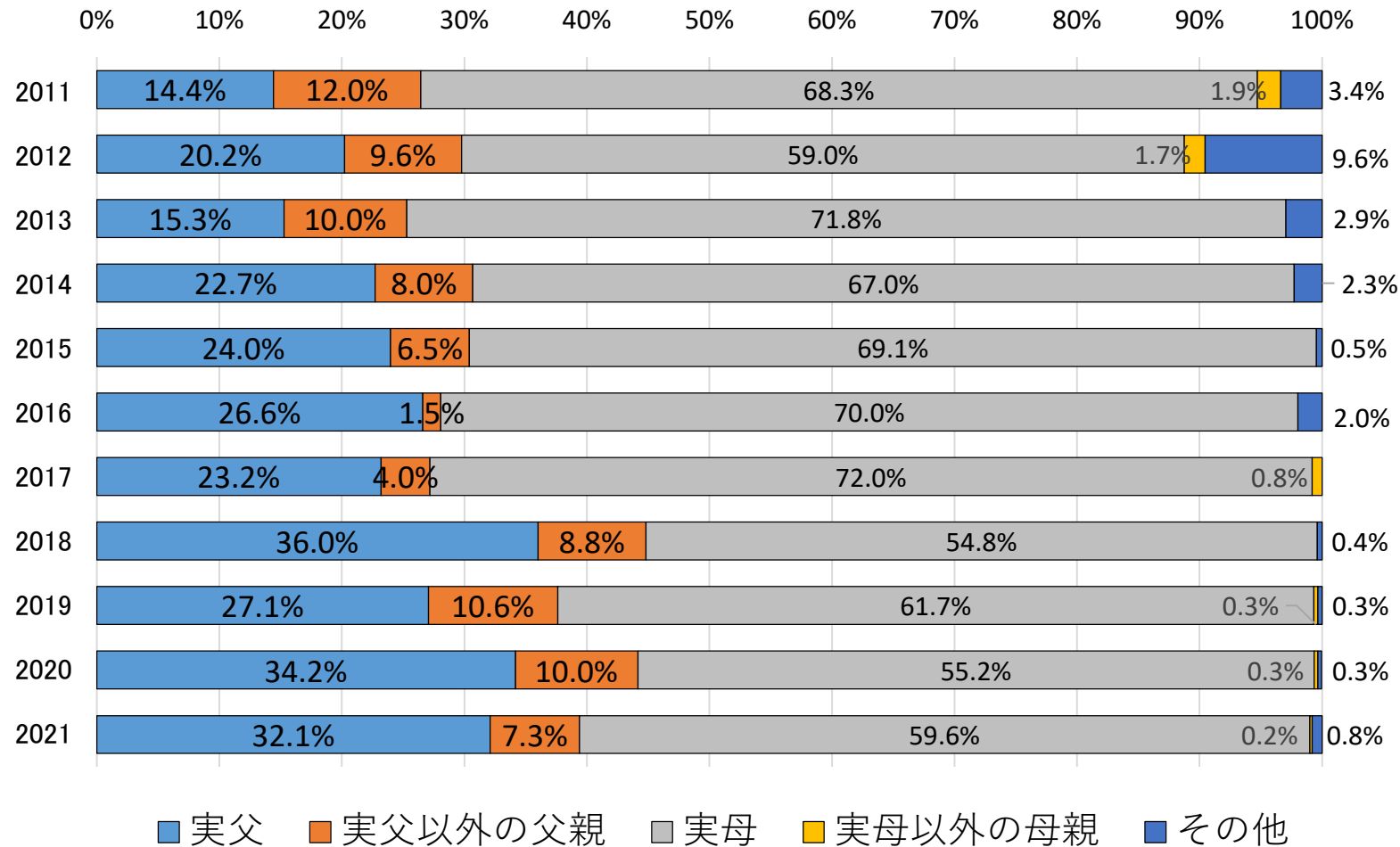
これまでの免許返納の状況などを確認し、検討を行う。

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例③

児童虐待防止に関するアドバイス

児童虐待者の割合

出典：家庭子ども相談課統計



児童虐待の7割程度が、実母によるものであり、母親を対象とした取組が必要であった。

近年、父親による虐待の割合が増している。
父親に対する取組も必要ではないか？

推進協議会・対策委員会へのアドバイス例③

児童虐待防止に関するアドバイス

アドバイス

児童虐待防止対策では、虐待者の6割が実母によるものであったことに着目されているが、近年、父親による虐待が増加する傾向が見られる。父親に着目した対策を検討できないか？

児童虐待防止対策委員会の対応

父親への直接のアプローチは困難であるが、「こども予防接種セット」の交付の機会などに、父親への啓発を行っている。
また、街頭キャンペーンでは、男性に積極的に声を掛けるようにしている。
これからも、男性との接点を捉えて、直接的な啓発を行っていききたい。

3 これからの取組

3-1 コロナ禍でのデータの推移

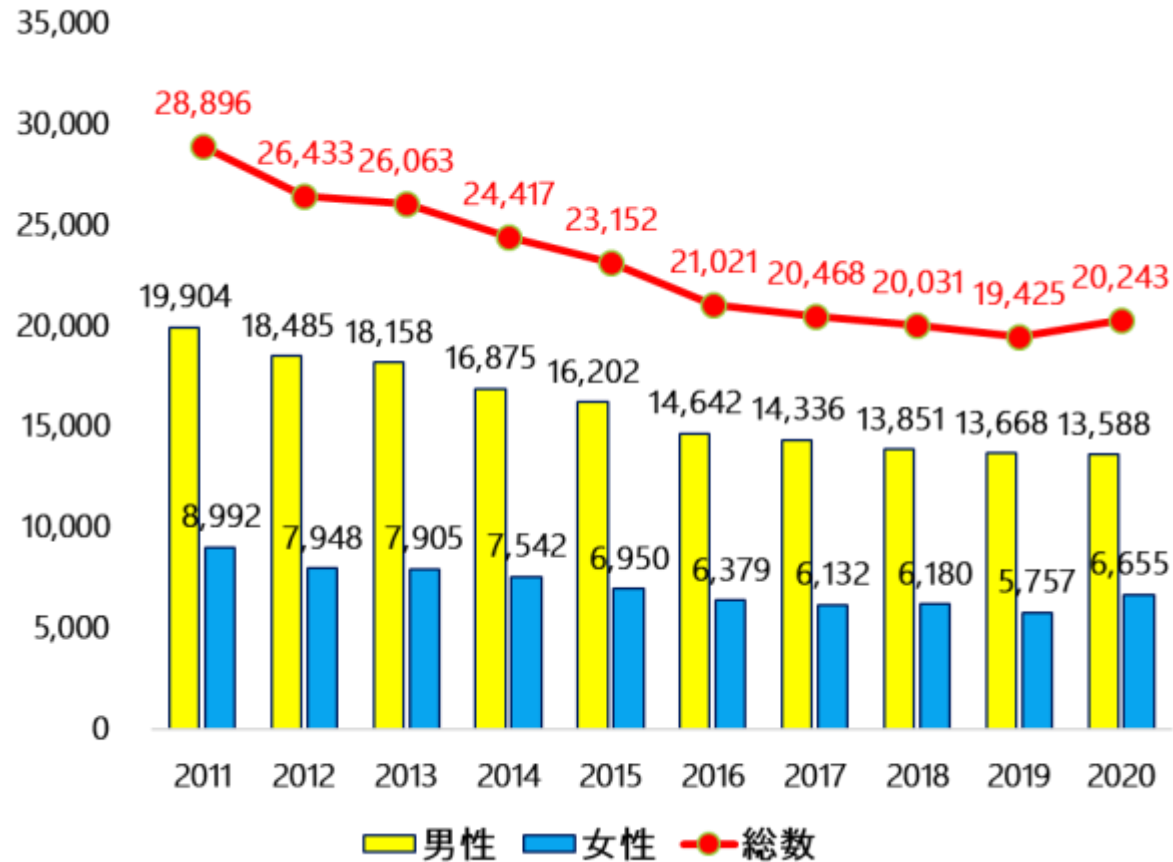
3-2 久留米市の外因死の推移

3-3 これからの取組

コロナ禍でのデータの推移①

全国の自殺者数

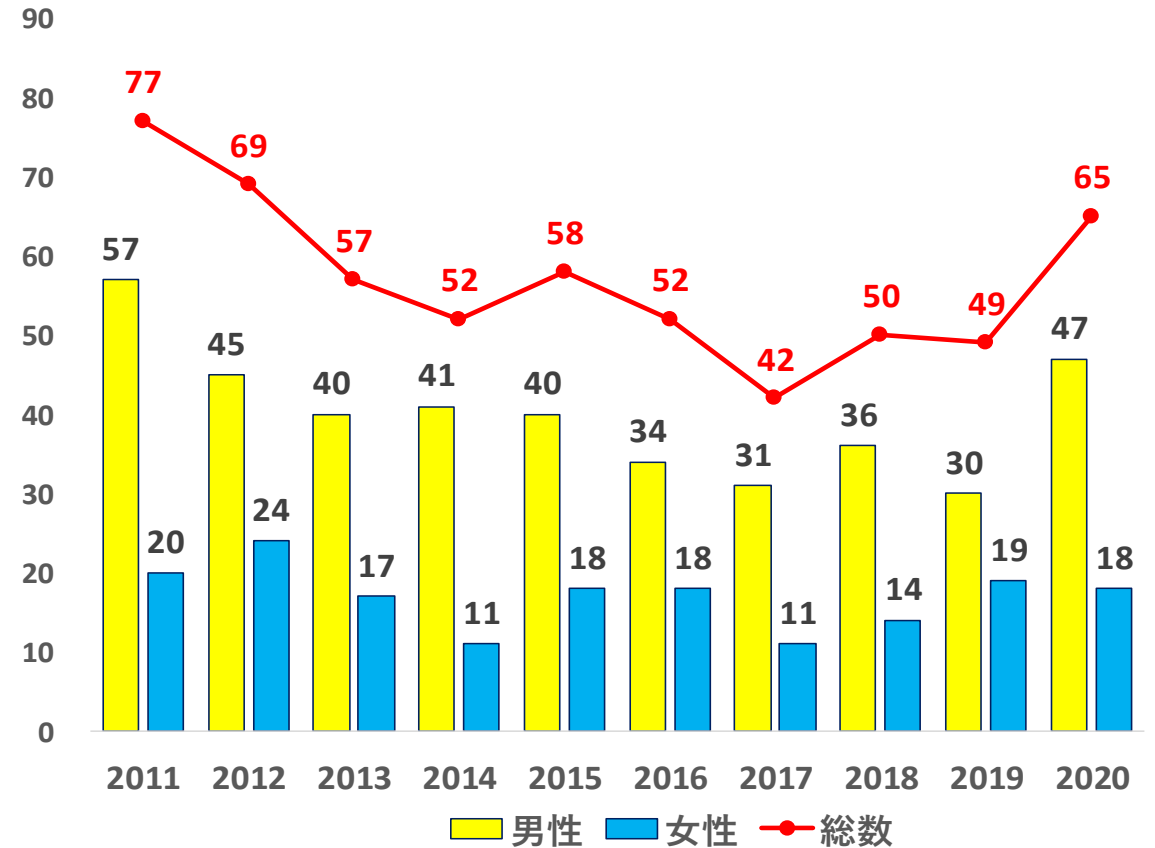
出典：人口動態統計



- 2020年は、全国の自殺者が増加
- 全国では、女性の自殺者が増加

久留米市の自殺者数

出典：人口動態統計

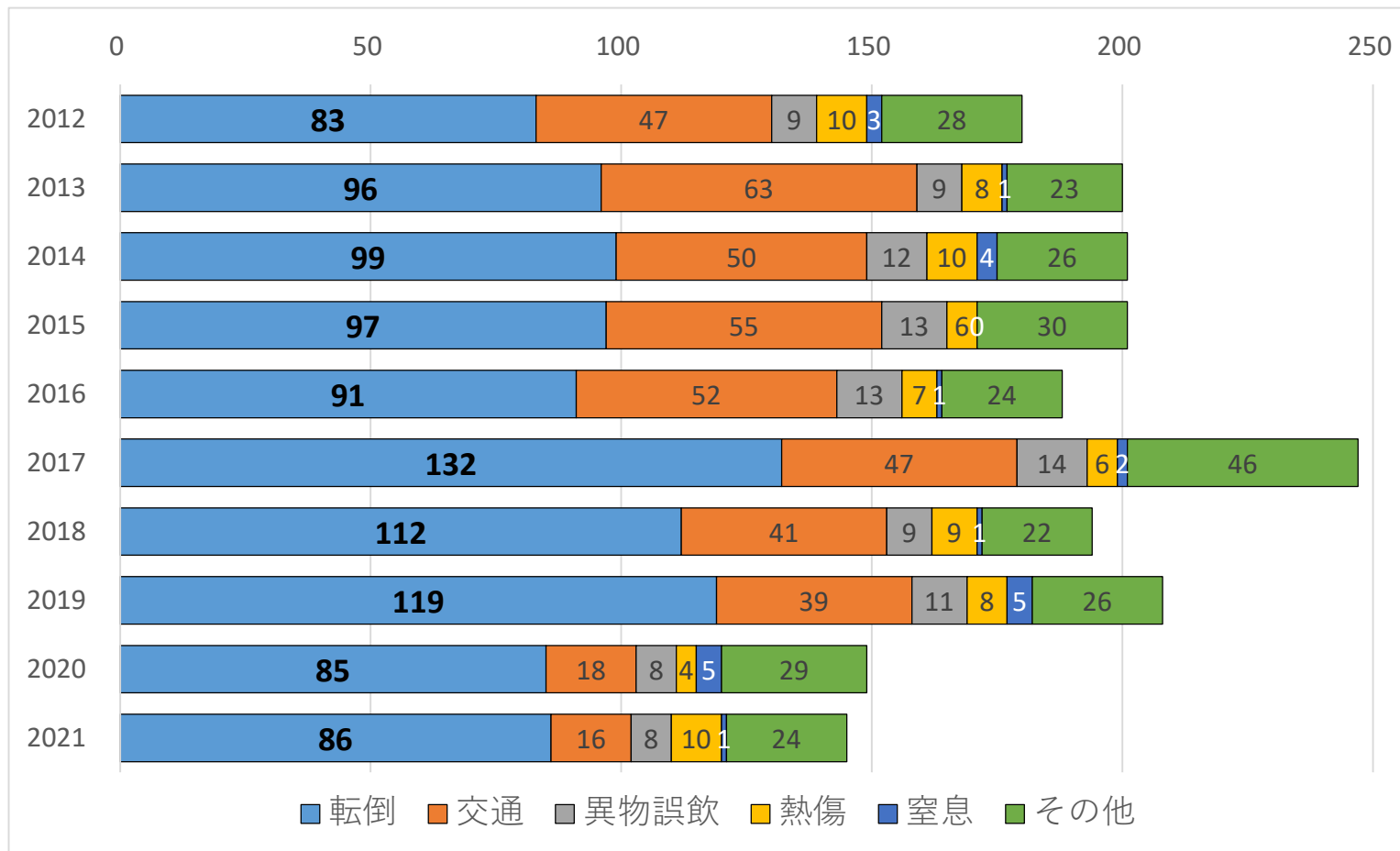


- 久留米市も自殺者数が増加
- 久留米市では男性が増加

コロナ禍でのデータの推移②

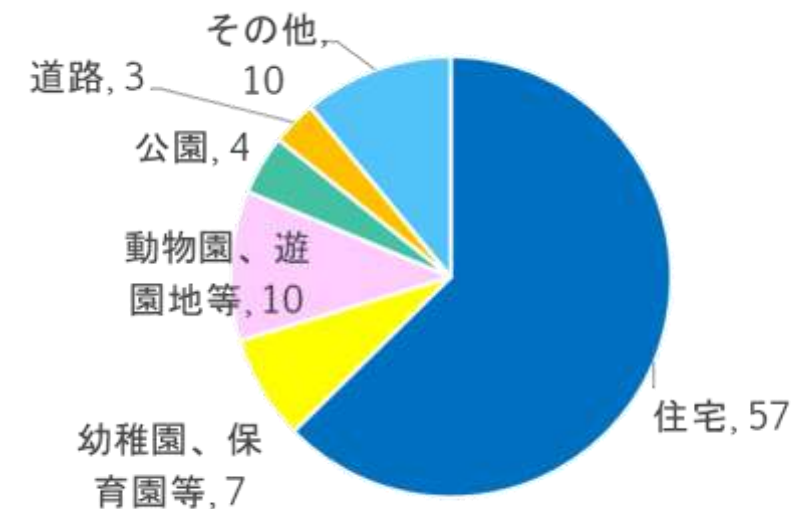
乳幼児（0～6歳）の救急搬送件数

出典：救急搬送データ



転倒発生場所

出典：救急搬送データ 2021年(R3年)

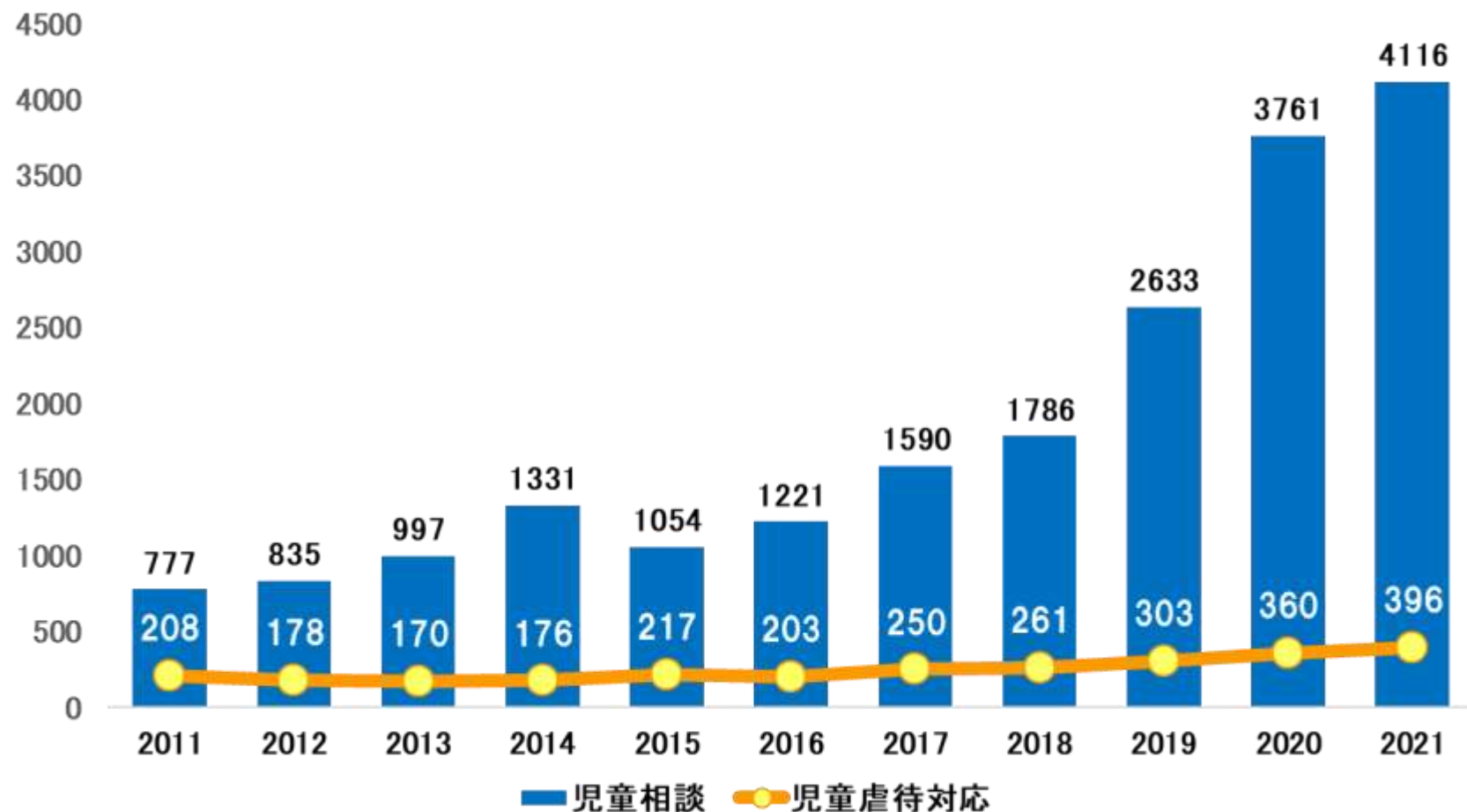


- 2017年～2019年は、乳幼児の転倒が増加
- 転倒の発生場所は、住宅が最多
- 2020年、2021年は、転倒が減少

コロナ禍でのデータの推移③

児童相談件数・児童虐待対応件数

出典：久留米市家庭子ども相談課統計

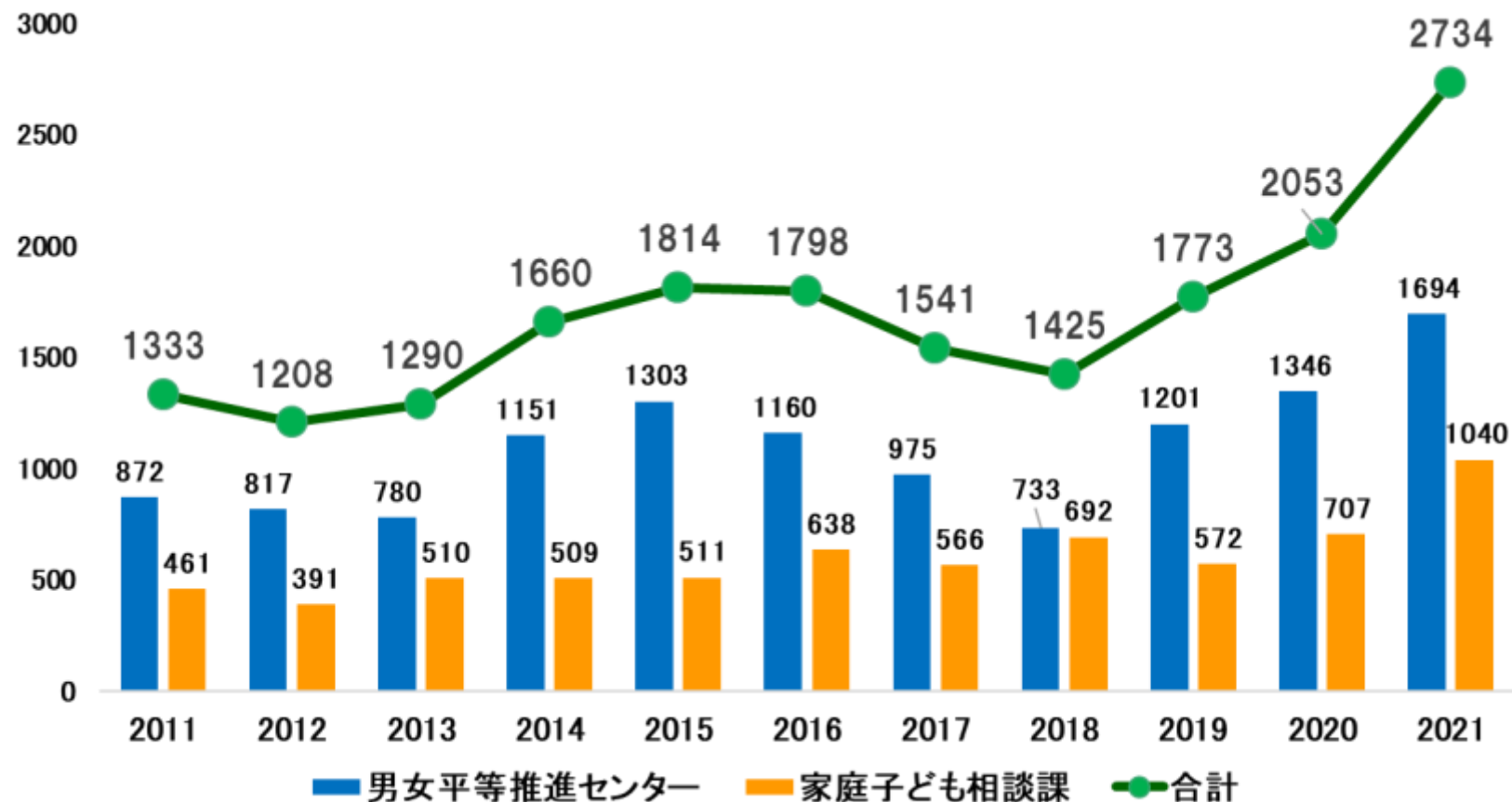


- 児童相談件数、児童虐待対応件数ともに増加
- 児童相談件数は、2019年以降急増
- 父親による虐待の増加(37ページ)との関連？

コロナ禍でのデータの推移④

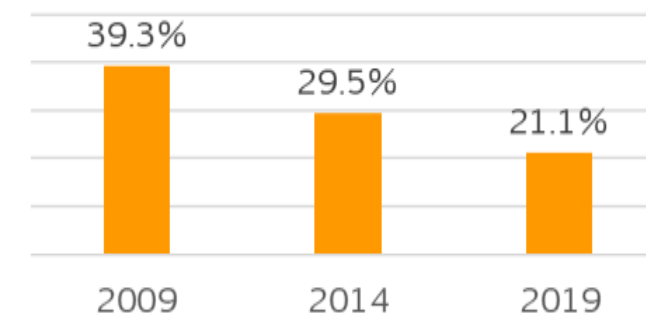
DVに関する相談件数

出典：久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課統計



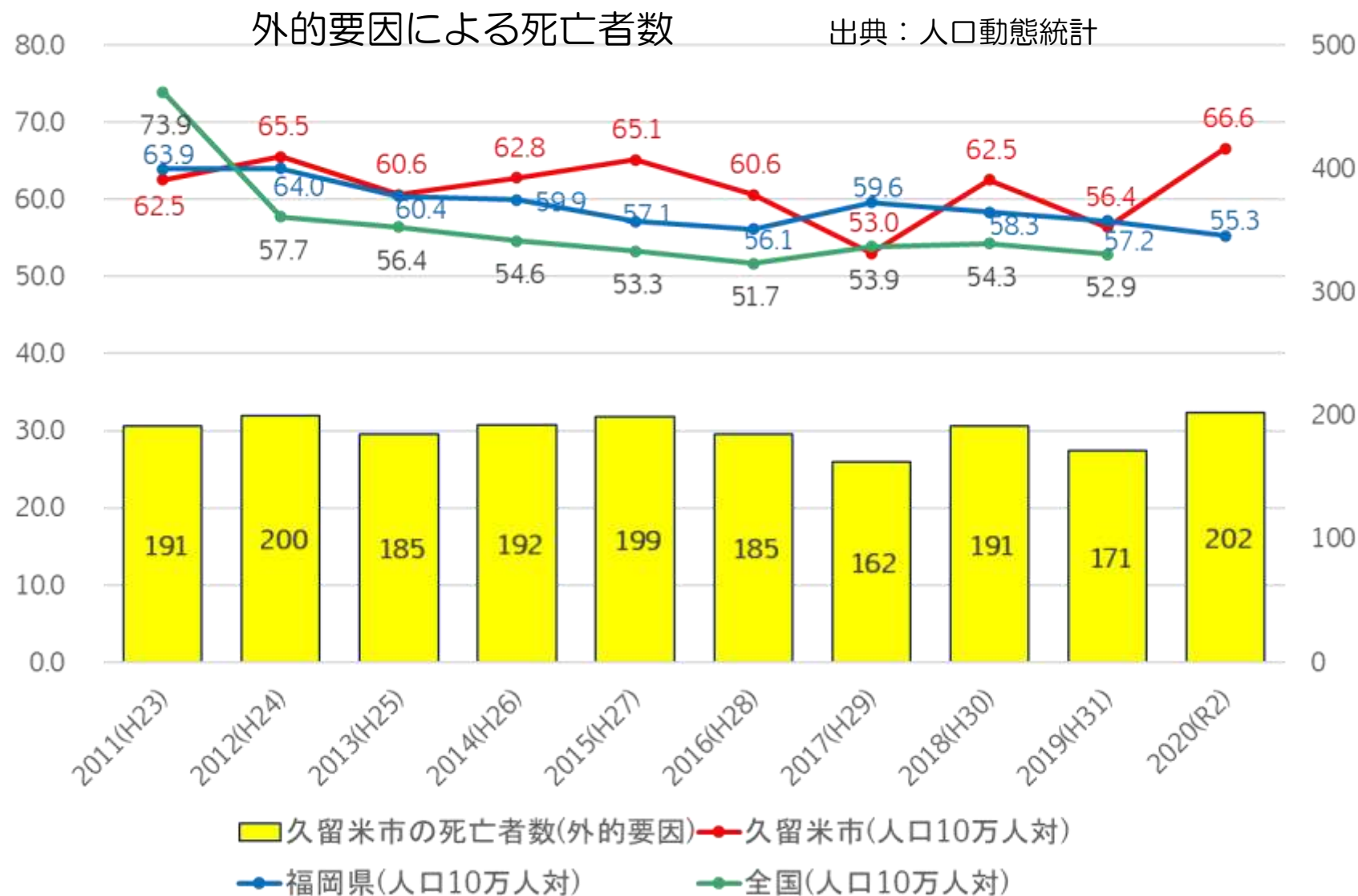
パートナーからDVを受けた人の割合

出典：男女平等に関する市民意識調査



- 2019年以降、DVに関する相談が急増
- パートナーからDVを受けた人の割合は、2019年の調査まで減少

久留米市の外因死の推移①



- 外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばい
- 10万人あたりの死亡者数は、全国、福岡県を上回ることが多い。

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2007年(H19年)～2011年(H23年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 1	窒息 1	
20～29歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 4	煙・火 1	
30～39歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 4	転倒・転落 2	他殺 1
40～49歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 3	溺死・溺水 2	転倒・転落 1
50～59歳	自殺 86	交通事故 13	溺死・溺水 9	窒息 7	その他
60～69歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89歳	溺死・溺水 55	窒息 47	転倒・転落 24	自殺 21	その他
90歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	交通事故 6	その他
全年齢	自殺 369	溺死・溺水 141	窒息 115	転倒・転落 88	交通事故 84

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2008年(H20年)～2012年(H24年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	交通事故	中毒	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	他殺	中毒	溺死・溺水
50～59歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2009年(H21年)～2013年(H25年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	他殺
30～39歳	自殺	中毒	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	転倒・転落
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	溺死・溺水	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	交通事故	窒息	転倒・転落
70～79歳	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2010年(H22年)～2014年(H26年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落	窒息	
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水		
30～39歳	自殺	交通事故	中毒	転倒・転落	溺死・溺水
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	中毒	煙・火
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	溺死・溺水	中毒等
60～69歳	自殺	溺死・溺水	交通事故	窒息	転倒・転落
70～79歳	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	煙・火
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2011年(H23年)～2015年(H27年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水	窒息
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
50～59歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2012年(H24年)～2016年(H28年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	窒息
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
50～59歳	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2013年(H25年)～2017年(H29年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9 歳	交通事故	溺死・溺水			
10～19 歳	自殺	窒息	交通事故		
20～29 歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39 歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	中毒
40～49 歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59 歳	自殺	窒息	交通事故	転倒・転落	中毒
60～69 歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79 歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89 歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90 歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2014年(H26年)～2018年(H30年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水				
10～19歳	自殺	窒息	交通事故		
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	交通事故	転倒・転落	煙・火	中毒
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59歳	自殺	窒息	交通事故	溺死・溺水	転倒・転落
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2015年(H27年)～2019年(R1年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水				
10～19歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	
20～29歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
30～39歳	自殺	煙・火	交通事故	転倒・転落	中毒
40～49歳	自殺	交通事故	窒息	転倒・転落	煙・火
50～59歳	自殺	交通事故	転倒・転落	窒息	溺死・溺水
60～69歳	自殺	溺死・溺水	窒息	交通事故	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	自殺	交通事故
90歳～	転倒・転落	溺死・溺水	窒息	交通事故	自殺
全年齢	自殺	溺死・溺水	窒息	転倒・転落	交通事故

久留米市の外因死の推移②

病気を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計 2016年(H28年)～2020年(R2年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水 2	転倒・転落 1	窒息 1		
10～19歳	自殺 13	交通事故 2	転倒・転落 1		
20～29歳	自殺 23	交通事故 7	転倒・転落 1		
30～39歳	自殺 30	溺死・溺水 3	煙・火 1	交通事故 1	転倒・転落 1
40～49歳	自殺 43	窒息 4	転倒・転落 4	交通事故 3	溺死・溺水 1
50～59歳	自殺 50	転倒・転落 5	交通事故 4	窒息 3	中毒 3
60～69歳	自殺 39	溺死・溺水 21	窒息 10	交通事故 9	転倒・転落 6
70～79歳	溺死・溺水 52	自殺 31	窒息 24	転倒・転落 13	交通事故 9
80～89歳	溺死・溺水 83	窒息 33	転倒・転落 33	自殺 24	交通事故 15
90歳～	転倒・転落 45	溺死・溺水 28	窒息 24	自殺 5	交通事故 3
全年齢	自殺 258	溺死・溺水 194	窒息 108	転倒・転落 100	交通事故 54

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

病気を除く死亡原因の上位の比較

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
2007～2011累計	自殺 369	溺死・溺水 141	窒息 115	転倒・転落 88	交通事故 84
2016～2020累計	自殺 258	溺死・溺水 194	窒息 108	転倒・転落 100	交通事故 54

上位の死亡原因に対する今後の取組など

死亡原因	今後の取組など
自殺	➤ 全体順位は、一貫して1位であるが、自殺者数は減少傾向 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続
溺死・溺水	➤ 対策を行っているが、死亡者数が増加 ➤ より効果的な対策を行うために、新たなデータの収集、分析が必要
窒息	➤ 死亡原因の上位であるが、重点取組に位置付けていない ➤ 原因を究明するため、新たなデータの収集、分析が必要
転倒・転落	➤ 高齢者の転倒は増加傾向であるが、必要な対策は明確 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続
交通事故	➤ 全体での順位は変わらないが、死亡者数は減少 ➤ 対策委員会の取組をしっかりと継続

外相等動向調査委員会のこれからの取組

1. コロナ禍で動きがあったデータを注視

- データの動きが、コロナの影響であったかどうかを見極めていく。

2. 新たなデータの収集、分析

- 窒息の原因を究明するため、原因となる食べ物や基礎疾患との関連など、新たなデータの収集、分析を行う。
- より効果的な溺死・溺水対策を行うため、基礎疾患や服薬との関連など、新たなデータの収集、分析を行う。

3. 医療機関等との連携の強化

- ②の新たなデータの収集、分析に加え、医療機関や高齢者施設などで行われている患者や入居者に対する安全対策を、家庭などの安全に活かすため、連携を強化する。

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

久留米市の外因死の推移②

外因死のうち、「その他」を除く死亡原因の上位

出典：人口動態統計

2007年(H19年)～2011年(H23年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水 2	交通事故 1			
10～19歳	自殺 8	交通事故 5	転倒・転落 1 窒息 1		
20～29歳	自殺 38	交通事故 7	溺死・溺水 3	他殺 1 煙・火 1	
30～39歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 4	転倒・転落 2	溺死・溺水 1 他殺 1
40～49歳	自殺 59	交通事故 6	中毒 3 他殺 3	溺死・溺水 2 窒息 2	転倒・転落 1 煙・火 1
50～59歳	自殺 86	交通事故 13	溺死・溺水 9	窒息 7	転倒・転落 5
60～69歳	自殺 56	溺死・溺水 14	交通事故 12	窒息 10	転倒・転落 7
70～79歳	溺死・溺水 44	自殺 40	窒息 26	転倒・転落 25	交通事故 17
80～89歳	溺死・溺水 55	窒息 47	転倒・転落 24	自殺 21	交通事故 11
90歳～	転倒・転落 23	窒息 22	溺死・溺水 11	交通事故 6	自殺 2 煙・火 2
全年齢	自殺 369	溺死・溺水 141	窒息 115	転倒・転落 88	交通事故 84

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

久留米市の外因死の推移③

外因死のうち、「その他」を除く死亡原因の上位

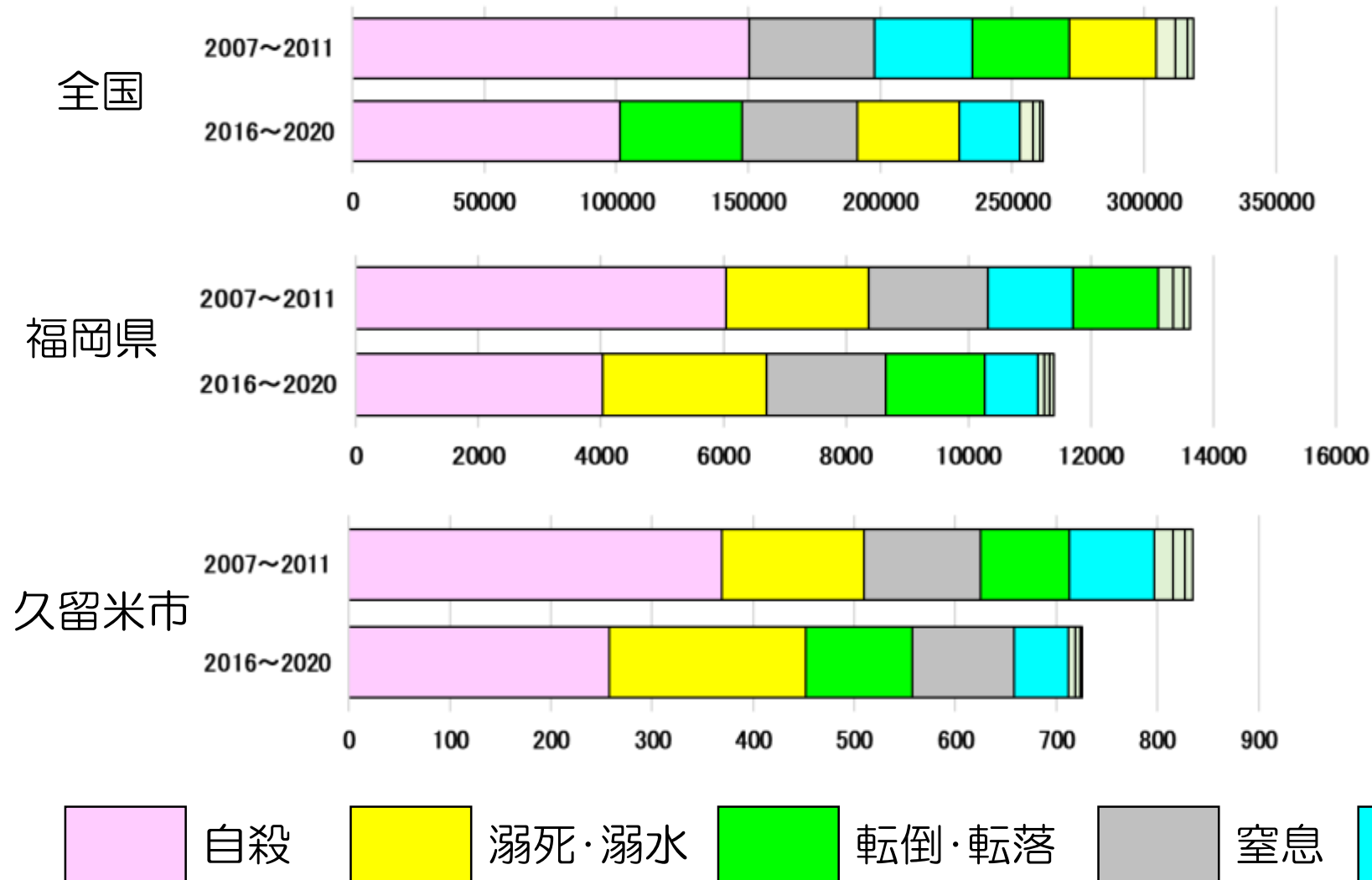
出典：人口動態統計

2016年(H28年)～2020年(R2年)の累計

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水 2	転倒・転落 1 窒息 1			
10～19歳	自殺 13	交通事故 2	転倒・転落 1		
20～29歳	自殺 23	交通事故 7	転倒・転落 1		
30～39歳	自殺 30	溺死・溺水 3	交通事故 1 転倒・転落 1 窒息 1	煙・火 1 中毒 1	
40～49歳	自殺 43	転倒・転落 4 窒息 4	交通事故 3	溺死・溺水 1 中毒 1	煙・火 1 他殺 1
50～59歳	自殺 50	交通事故 5	溺死・溺水 4	窒息 3 中毒 3	転倒・転落 1 煙・火 1
60～69歳	自殺 39	溺死・溺水 21	窒息 10	交通事故 9	転倒・転落 6
70～79歳	溺死・溺水 52	自殺 31	窒息 24	転倒・転落 13	交通事故 9
80～89歳	溺死・溺水 83	転倒・転落 33 窒息 33	自殺 24	交通事故 15	煙・火 1
90歳～	転倒・転落 45	溺死・溺水 28	窒息 24	自殺 5	交通事故 3
全年齢	自殺 258	溺死・溺水 194	転倒・転落 106	窒息 100	交通事故 54

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の「その他」を除く外因死亡原因の上位 出典：人口動態統計

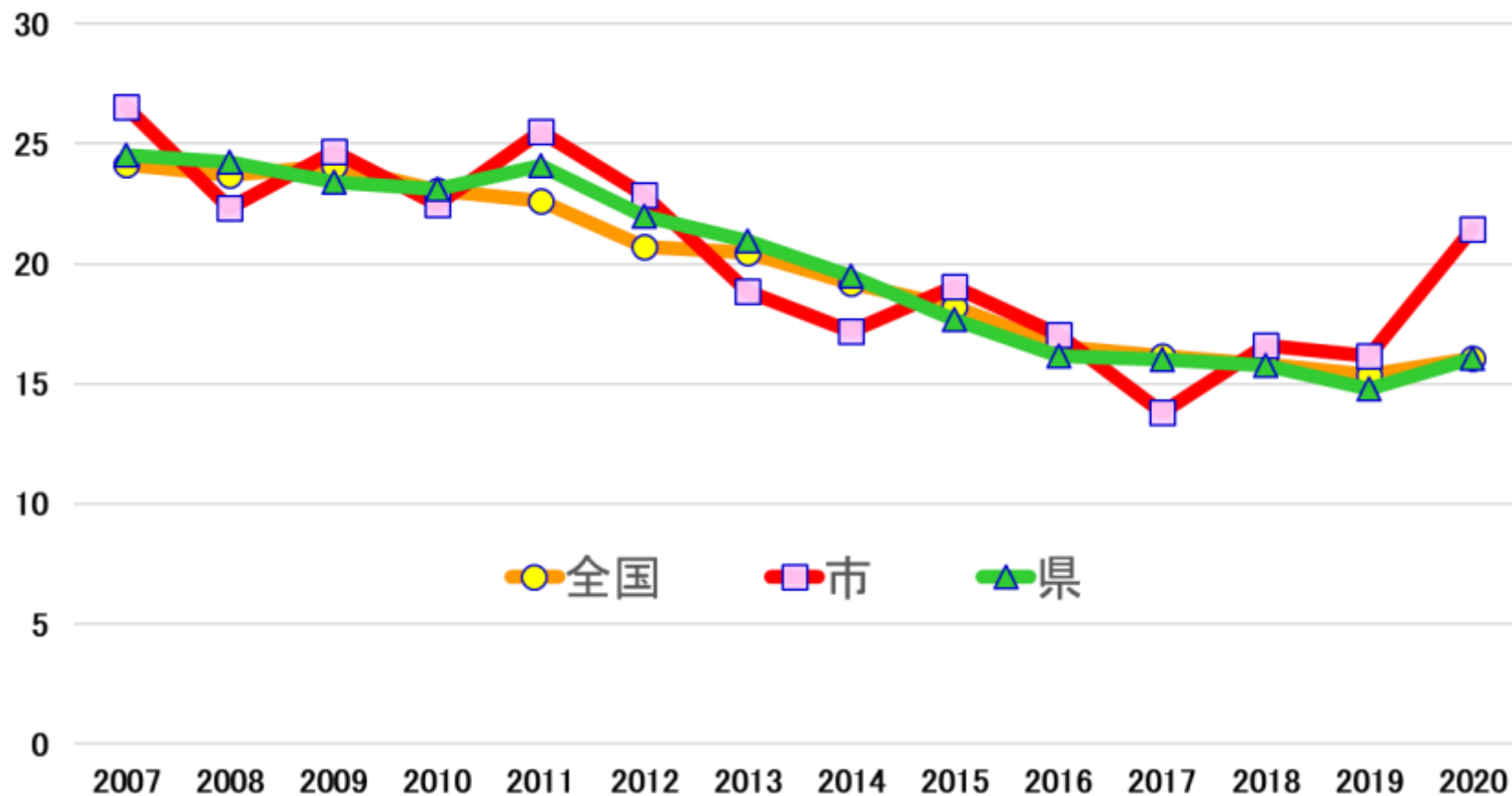


- 全国、福岡県、久留米市とも、「その他」を除く外因死は減少の傾向
- 全国、福岡県、久留米市とも、自殺が減少
- 福岡県、久留米市は、全国に比べ、溺死・溺水の発生が目立つ。

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の死因別の10万人あたり外因死発生率 出典：人口動態統計

① 自殺(全年齢)



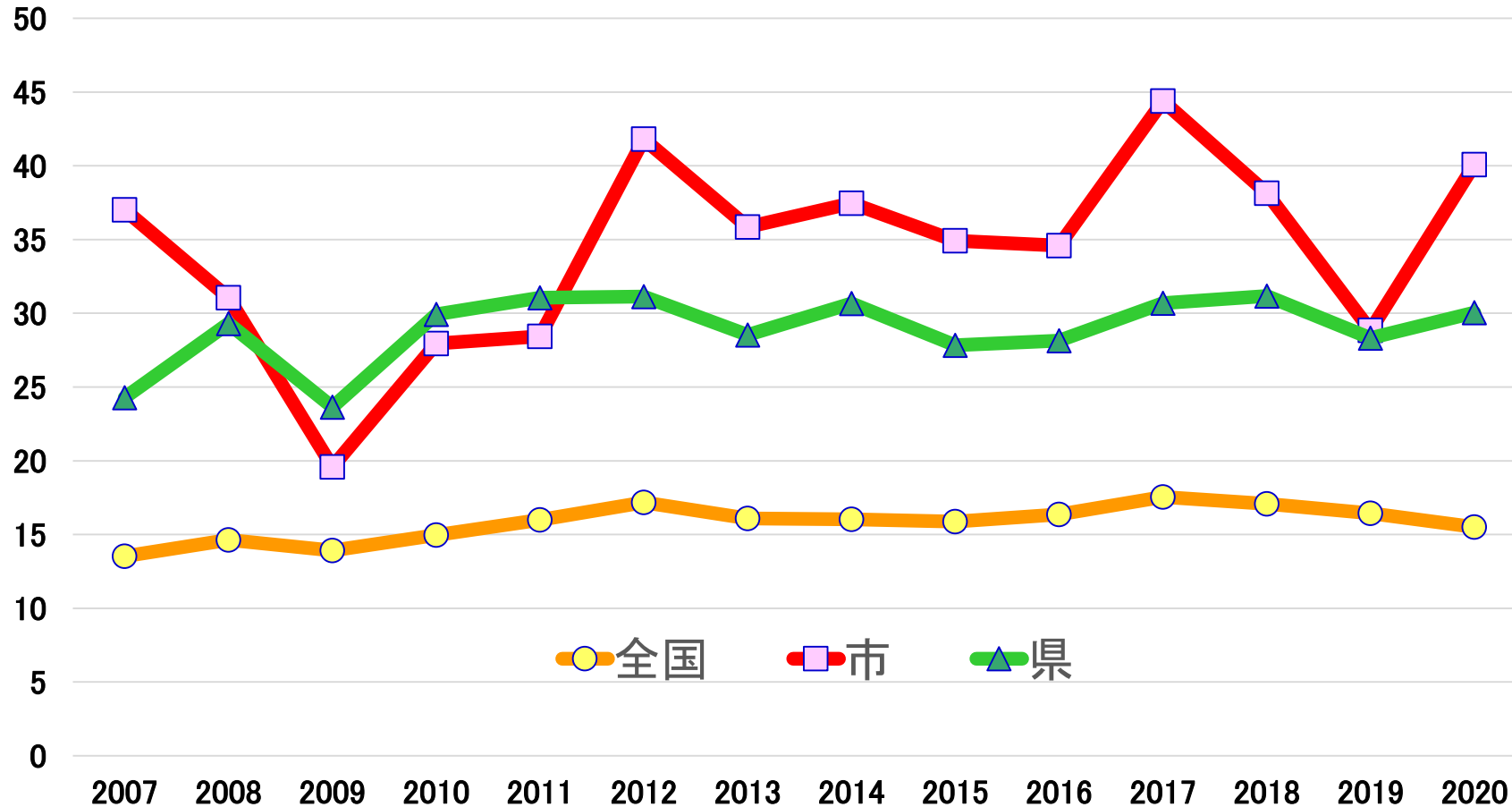
- 久留米市の自殺発生率は、全国、福岡県と同じく減少傾向にあったが、2020年に増加
- 新型コロナウイルス感染症との関連が疑われるが因果関係は不明。今後の動向を注視していく。

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の死因別の10万人あたり外因死発生率

出典：人口動態統計

② 溺死・溺水(60歳以上)



➤ 溺死・溺水は、60歳以上の高齢者に多く発生していることから、60歳以上で比較(※)

➤ 久留米市の溺死・溺水発生率は、2012年以来、全国、福岡県を上回る。

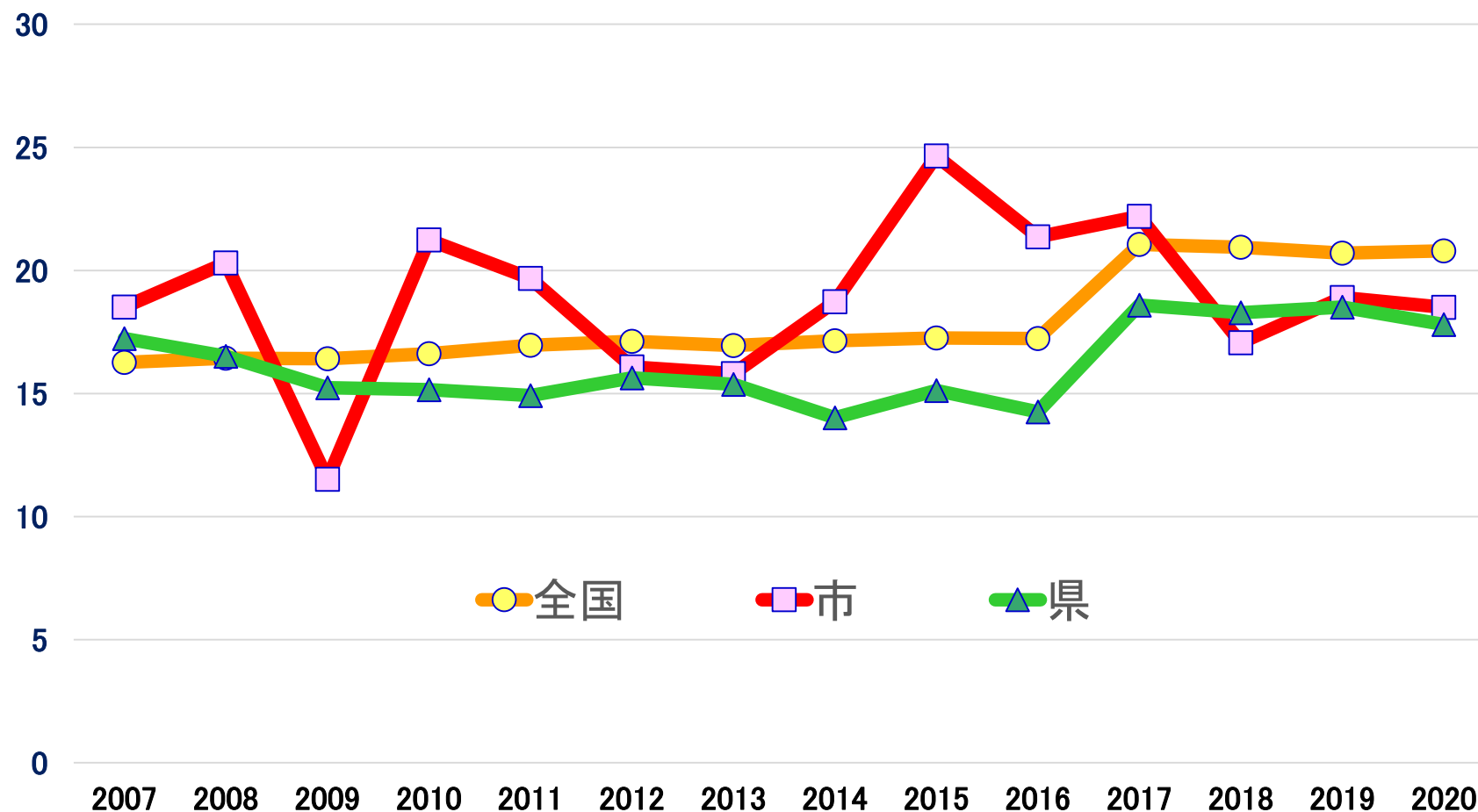
※ 2020年の久留米市では
発生数:43
うち60歳以上:39

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の死因別の10万人あたり外因死発生率

出典：人口動態統計

③ 転倒・転落(60歳以上)



➤ 転倒・転落は、60歳以上の高齢者に多く発生していることから、60歳以上で比較(※)

➤ 久留米市の転倒・転落発生率は、近年減少傾向にあり、2018年以降は全国を下回っている。

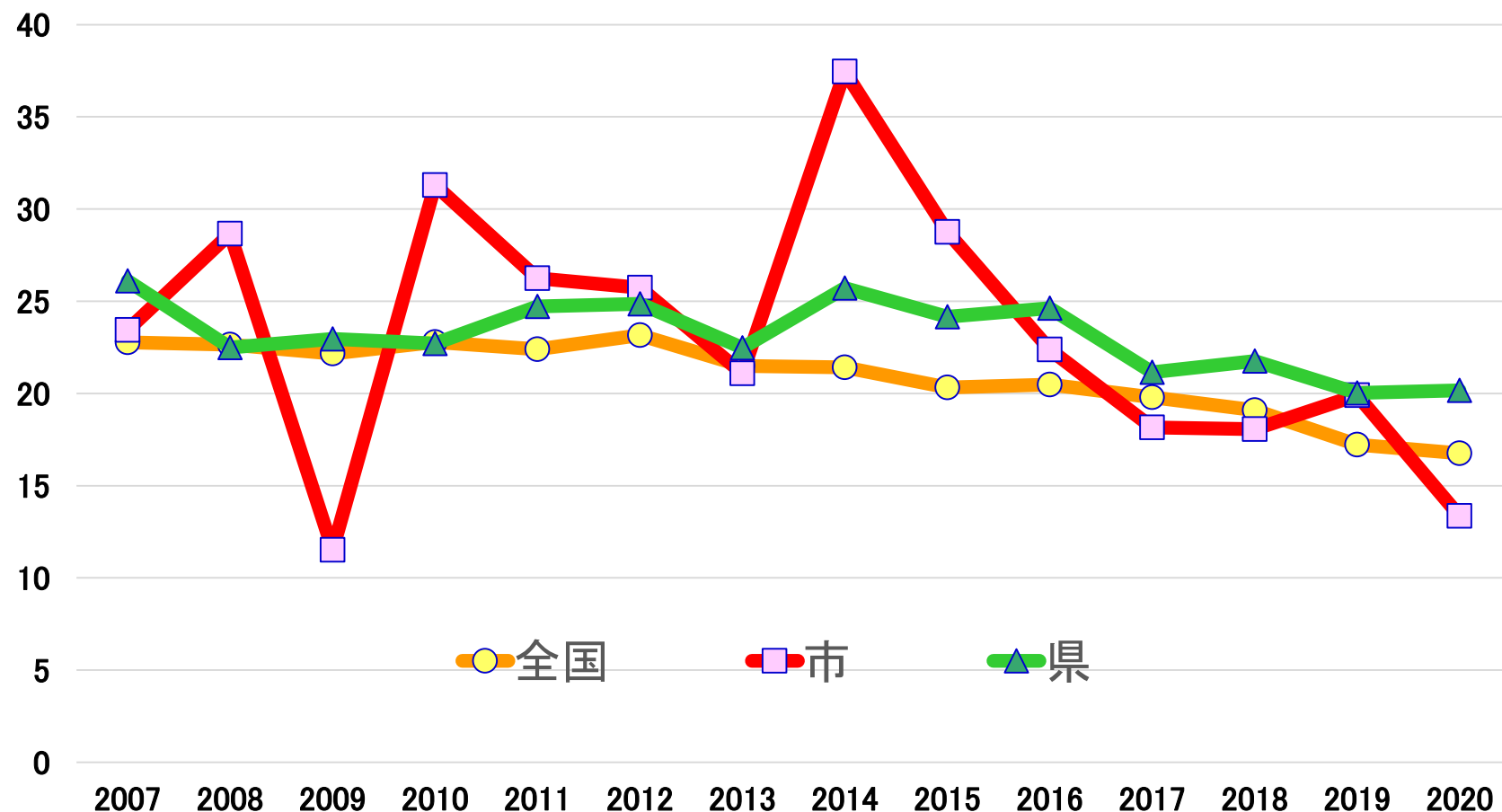
※ 2020年の久留米市では
発生数:22
うち60歳以上:18

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の死因別の10万人あたり外因死発生率

出典：人口動態統計

④ 窒息(60歳以上)



➤ 窒息は、60歳以上の高齢者に多く発生していることから、60歳以上で比較(※)

➤ 久留米市の窒息発生率は、減少傾向にあり、2020年は全国を下回った。

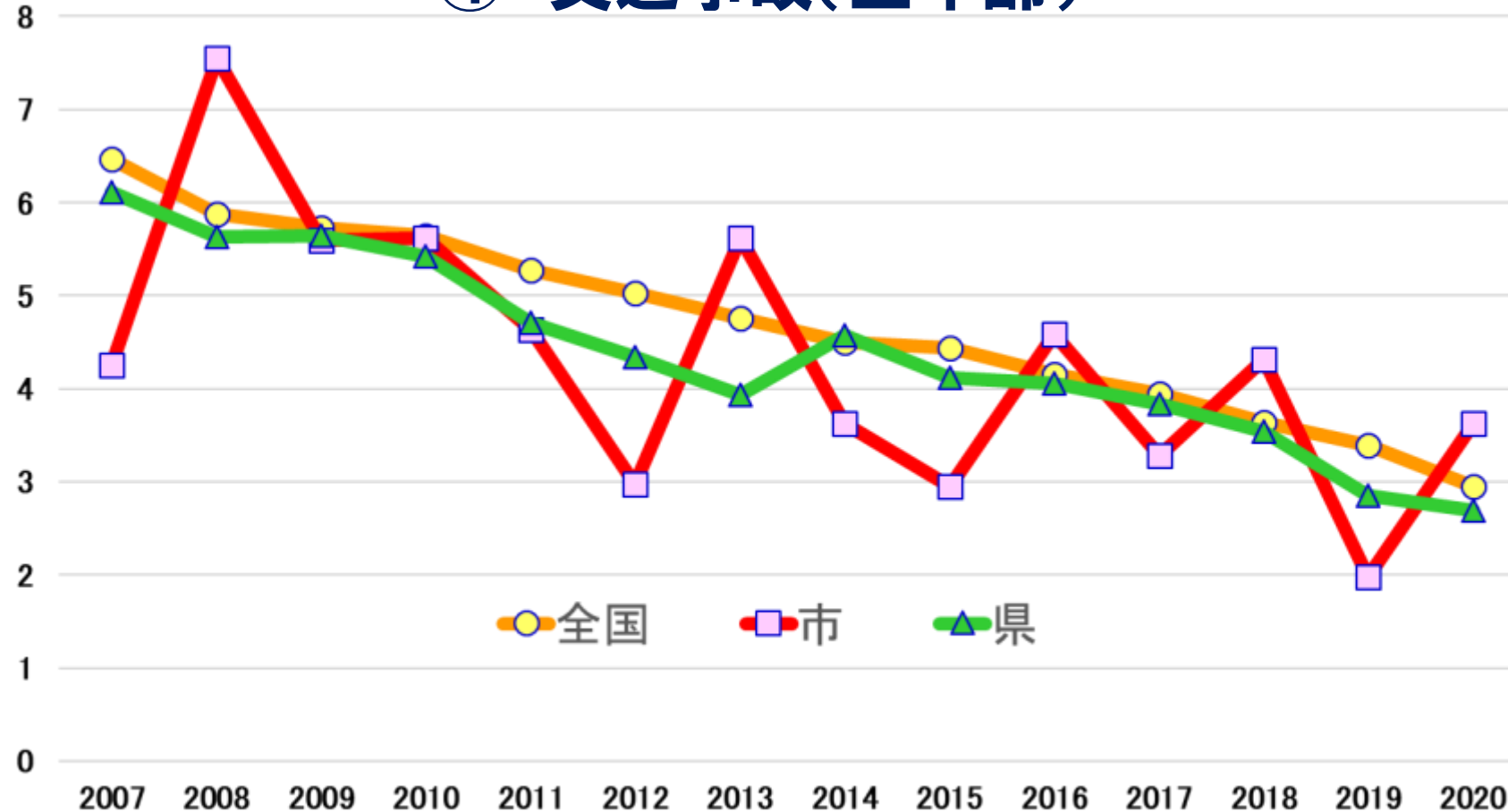
※ 2020年の久留米市では
発生数:16
うち60歳以上:13

3. これからの取組（3-2 久留米市の外因死の推移）

全国・福岡県・久留米市の死因別の10万人あたり外因死発生率

出典：人口動態統計

④ 交通事故(全年齢)



- 久留米市の交通事故発生率は増減を繰り返しているが、長期的には減少傾向である。
- 久留米市の交通事故発生率は、全国、福岡県を下回ることもある。

上位の外因死亡原因に対する今後の取組など

死亡原因	今後の取組など
自殺	➤ 全体順位は、一貫して1位であるが、自殺者数は減少傾向 ➤ 新型コロナウイルス感染症との関連を注視しながら、PDCAサイクルに基づき対策委員会の取組を継続
溺死・溺水	➤ 対策を行っているものの、死亡者数が増加。県、全国と比較して発生率が高い。 ➤ より効果的な対策を検討することが必要
転倒・転落	➤ 高齢者の転倒は増加傾向であるが、発生率は減少傾向にある。 ➤ PDCAサイクルに基き、対策委員会の取組を継続
窒息	➤ 死亡原因の上位であるが、発生率は近年減少している。 ➤ 転倒予防も含めた総合的な介護予防対策の効果が始めている。 ➤ 今のところ、窒息はセーフコミュニティの重点取組ではないが、データの収集、分析を継続し、対策推進部局に情報提供を行っていきたい。
交通事故	➤ 全体での順位は変わらないが、死亡者数、発生率は減少傾向にある。 ➤ PDCAサイクルに基づき、対策委員会の取組を継続

外相等動向調査委員会のこれからの取組

1. コロナ禍で動きがあったデータを注視

- データの動きが、コロナの影響であったかどうかを見極めていく。

2. より効果的な対策の検討

①データの収集分析

- 外因による死亡原因のうち、特に発生率の高い溺死・溺水について、より効果的な対策を検討するため、基礎疾患や服薬との関連など、新たな視点からデータの収集や分析を行う。
- 溺死・溺水を除く外因による死亡原因についても、より効果的な対策を検討するため、新たな視点のデータの収集や分析を行う。

②医療機関等との連携の強化

- 新たなデータの収集、分析に加え、医療機関や高齢者施設などで行われている患者や入居者に対する安全対策を家庭などの安全に活かすため、連携を強化する。

ご清聴ありがとうございました。



外傷等動向調査委員会